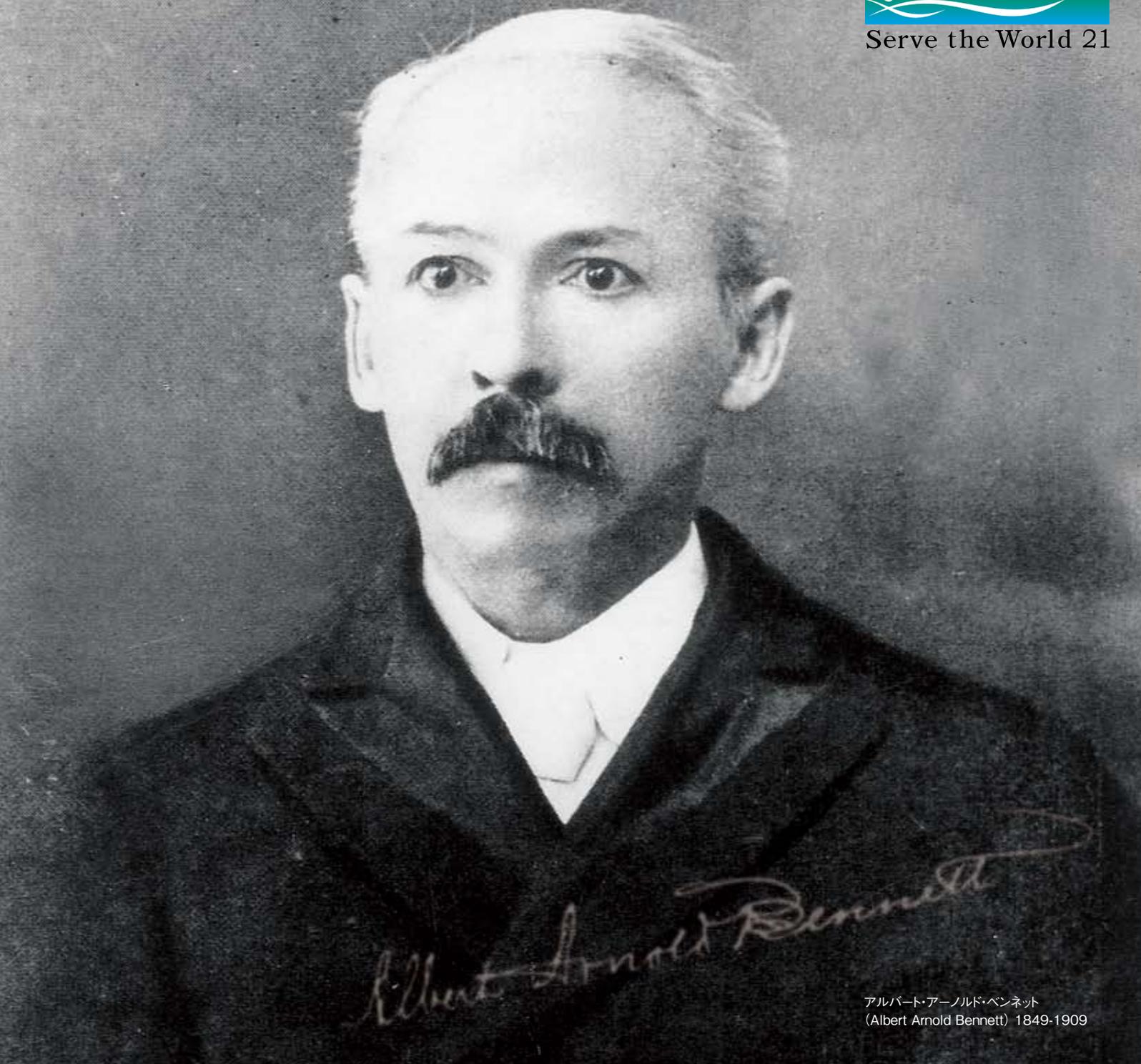


関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No. 38 2009.9



Serve the World 21



Albert Arnold Bennett

アルバート・アーノルド・ベンネット
(Albert Arnold Bennett) 1849-1909

関東学院125年の歩み

関東学院学院長 森島 牧人

米国北部バプテスト派宣教師たちによって創設された関東学院は、今年で創立125年を迎えます。これを契機に関東学院の歴史を検証し良き伝統の継承を願うものであります。

第一の源流…横浜バプテスト神学校

関東学院125年の歴史には、3つの源流があります。その第一のものは1884年に横浜山手に創設された「横浜バプテスト神学校」です。初代校長A・A・ペンネットは、学院の「奉仕教育」の重要な切り口をつくった人物です。彼は、1879年横浜に到着し活動を開始するや、日本の伝道は日本人の手でなすべきだと痛感し、1884年春の宣教師会議において神学校設立を提案しています。この案は満場一致で可決され、同年10月6日横浜山手64番の宣教師館を用い十分な援助もないまま5名の学生で始まりましたが、宣教師たちの献身的な働きによって継続されてゆきました。ペンネットは、創立25周年式典の翌日に（1909年10月9日）天に召されるまで、その全生涯を日本のキリスト教教育に捧げ、多くの人々を愛し、多くの人々に愛された人物でした。横浜外国人墓地にある彼の墓石に刻まれた言葉、「He lived to serve」

（彼は奉仕のために生きた）通りの生涯でした。

第二の源流…東京中学院

開国以来、東京築地居留地には次々とミッションスクールや神学校が設立されました。バプテスト派宣教師たちも日本人牧師養成のためには、神学に幅広い教養を身につけさせる必要を感じ、1895年、普通教育を教授する学校を築地居留地42・43番に設立しました。これが関東学院の第二の源流となる東京中学院です。この設立に尽力したE.W.クレメントは、自らは教頭を担い、クラーク博士の感化を受けキリスト者になった札幌農学校一期生の渡瀬寅次郎を校長として招聘しました。東京中学院は、1899年東京牛込に移転して名称を東京学院と改名し中等科と高等科が設置されますが、1917年には中学部を廃止します。しかしこのような中、今日の「大関東学院」へと発展する重要な



東京学院(1899年東京牛込左内町に新築された東京学院校舎)

第三の源流…中学関東学院

関東学院の長い歴史の中で、1919年は大きな意味を持つ年となりました。関東学院はこの年再び横浜に戻り、男子のキリスト教教育に特化した学校を設立したのです。C・B・テンネーを設立者とし、初代院長に坂田祐が立ちました。1919年1月27日に横浜開港記念会館で設立披露会を開き学校を開校します。これが第三の源流であり、「関東学院」の名が誕生した瞬間であります。



財団法人関東学院(中学部本校舎1929年4月竣工)

転換期が訪れるのです。

代院長坂田祐は、その第一回入学式でキリスト教に基づく校訓「人になれ 奉仕せよ」を語ったのであります。

横浜のキリスト教総合学園構想

1927年、これら三つの源流を基に「財団法人関東学院」が組織され、C・B・テンネー学院長の下、東京学院神学部と高等学部が併合、キリスト教に基づく総合学園と成るべく横浜の地に根を下ろしていくのです。その後学院は、1945年の横浜大空襲により三春台校地の四分の三を焼失しますが、焼け残った中学部校舎で、中学部、航空工業専門学校と戦災で校舎を焼失した捜真女学校との三部授業を行いました。同年12月、六浦校地の使用が許可され、翌年1月に中学部の生徒が六浦校地に移転します。1947年3月には「学校教育法」が公布され、男子校の関東学院中学部は男女共学の関東学院中学校・高等学校となりました。

高等教育機関の設立

1949年、学院はキリスト教に基づく校訓に根ざし、高度の学問・技術を習得し、それを他者のために働かせる

CONTENTS

関東学院125年の歩み……………1
 関東学院学長 森島牧人

理事長挨拶……………3
 関東学院理事長 内藤幸穂

学院創立125周年記念事業……………5

創立記念事業告知/
 創立125周年記念事業募金の報告……………6

関東学院の源流を探る—30……………7
 本学教授/宗教主事/優れた通訳者 時田信夫 先生

建学の精神を生きる「卒業生に聞く」……………11
 日立市長 櫻村千秋 氏

「人になれ 奉仕せよ」を心に抱きつつ……………13
 野庭幼稚園園長就任にあたり 松田和憲

教職員人事……………14

関東学院各校NEWS……………17

生涯メールサービス提供開始……………23

生涯学習センター講座紹介……………24

主な学校行事予定(10月~3月)……………25

<カバー・ストーリー>

アルバート・アーノルド・ベンネット
 (Albert Arnold Bennett) 1849-1909

1879年12月に宣教師として来日。翌年から日本伝道は日本人によってなされるべきであると、自宅で説教を教えた。1884年10月6日に横浜バプテスト神学校を山手に創設し校長となり、25年間バプテスト神学校教授として学生を指導した。

1909年10月12日に召天し、横浜外国人墓地に埋葬された。墓碑銘に「He Lived to Serve」と記されているように、ベンネットは文字通り「生涯にわたって奉仕の人」であった。彼は教師、宣教師、研究者として優れた業績を残したが、人力車夫の生活擁護のためのパンフレットの刊行や、1896年の三陸大津波の救援のために救援金と物資をたずさへ現地へ赴き、長期間不眠不休の働きをした。ベンネットは謙虚な人で、また、日本人に間違われるほど日本語が堪能であり、日本人に愛され、讃美歌213に「神のひとよ、かみのひとよ」と歌われている。

関東学院の教育ミッション

関東学院の校訓「人になれ 奉仕せよ」が語る、共生社会に貢献できる人を実現する教育が、私どもの大きな使

事になりました。関東学院女子短期大学を改組転換し第5番目の学部として人間環境学部を設置、さらに2004年には法科大学院を設置し、校訓の具現化を目指した市民感覚豊かな法律のスペシャリストを育成する役割を引き受けることになりました。

命です。この意味するところを理解する上で、坂田祐が校訓「人になれ 奉仕せよ」に、さらに「その土台は、イエスキリスト也」という言葉を付け加えていることは注目に値します。自らが定めた校訓にこの言葉を加えたことの中に、彼が「私立中学関東学院」という名称にあえてこだわった理由を見出せるからです。それは、東京中学院初代院長の渡瀬寅次郎が聞いたクラーク博士の言葉、「少年よ、大志を抱け」に通じる場所があります。坂田は東京学院在学時代に、また二高時代の恩師内村鑑三を通してその精神を学んでいたのです。このクラーク博士の肖像画の下に記されている「Boys, be ambitious」は、言葉が続いているのです。その言わんとするところは、博士の決別の言葉の中にあつたと伝えられている「in Christ」です。「イエスキリストにあつて」大志を抱かなければ、本当の意味での大志とはならない、という思いが込められているのです。関東学院の校訓も、この「in

Christ」を補ってこそ、重要な意味を持つのであります。

主にあつて、奉仕に生きる

関東学院は、この教育ミッションをもつて、戦時中の苦難を乗り越え、戦後1945年には六浦の地を得、現在幼稚園から大学、大学院までを有する総合学園として発展して来たのであります。その特色は「奉仕教育」にありますが、その意味で特筆すべきは、昭和の初期、横浜で展開され、当時の社会事業部や神学部の学生たちが積極的に関わった学院のユニークな教育的試み、「関

東学院セツルメント」です。神学教育とこのセツルメントの伝統こそ、「He Lived to serve」とその墓石に刻まれた創設者ベンネットと学院の校訓「人になれ 奉仕せよ」を残した坂田祐の教育における建学の精神を具現化したものにはかなりません。そしてこの伝統は、大学生と小学生を繋いだ「社会貢献」と「体験教育」を通し活きた知識を習得する教育プログラム、「サービスマーケティング」として展開されています。小学生が実践的国際貢献、地域貢献活動に取り組んでいる例としては、全国でも珍しい試みであります。

Through the first 125 years of Kanto Gakuin

Over the past 125 years, today's Kanto Gakuin has had three different origins. The first origin was the establishment of the Yokohama Baptist Seminary in 1884 at Yamate in Yokohama. The first President was A. A. Bennett. Immediately after arriving in Yokohama in 1879, he started his activities and, in October 1884, opened the seminary with five students. The second origin was the establishment of Tokyo Chugakuin. E. W. Clement and other Baptist missionaries established a school in 1895 to provide general education, and Torajiro Watase, who was inspired by Dr. Clark and became a Christian, served as the first principal. The third origin was the establishment of Kanto Gakuin Middle School. In 1919, Kanto Gakuin Middle School was founded by C. B. Tenny with Tasuku Sakata as the first Chancellor. This is the third origin, and at this time the name of "Kanto Gakuin" was born.

125周年を迎えるにあたり

理事長 内藤幸穂

ご挨拶

翌々年125周年を迎えようとする
オックスフォード大学マンスフィールドカ
レッジのウォルフオード学長が、来日中、
京都の竜安寺を訪れた時の話である。

ウォルフオード学長によれば、ジェファ
ースンパーカーの警察小説に、水石とい
う言葉が出てくるというのだが、物語
では拾った石に風景をみるのだそうだ。
学長は竜安寺の石庭を見て、ひよと水
石という言葉が浮かんだと言われた。
石に水はつきもので、水は管理が厄介
だから、砂で代用したのはさすが吝嗇
(リンシヨク極度に物惜しみすること)
な禅坊主の工夫で、見事な石庭には心
打たれたと述べられた後、倉卒(ソウソ
ツ)用事が多く暇がないこと)の世事か
ら逃れて、壺中(コチュウ)の天の観想に
浸れば、宇宙との一体感が味わえると付
け加えられた。宗教学については英国の
トップをいくマンスフィールド・カレッジの
学長ならではの見識といわざるを得な
かった。

話はさらに進み、哲学的な話に流れ

た。古代インド人の知恵が東に流れ出
すと、有限に無限をみる禅宗になり、西
に流れると途中のアフガニスタンやイラ
クの砂漠地帯を通るうちに水気を失っ
て、ヨーロッパ近代の論理実証主義に化
ける。禅は元来上流階級のもので、念
仏を唱える大衆には縁遠いものだった
と言う。アメリカやイギリスの庶民も、
今では食べるものに困る時代から解き
放たれて、禅に近い思想へと変換しつづ
けるといふ興味深いお話であった。
あると、勢いはイギリス人が傘をもって歩
く習慣に及んでいった。人は今日は雨は
降るまいという推論をして家を出るも
ので、長時間天気を観察してから外出
する人はいない。つまり始めに仮説をた
てて、それに反する観測値がなければ、
さしあたり仮説をもってよしとする。
雨は降らないと思つて外出し、雨が降っ
てきたら、仮説が間違っていたとするこ
とから、イギリス人の多くが傘を持つて
いたほうが安全であるとする、と言う
のである。極論すれば、台風がきてから

安全な重装備をして外出するのでは、
科学は進歩しない。科学では感度のよ
い、それでいて脆い仮説が尊重される。
ウォルフオード学長によれば、科学的応
用力を、OECD学習到達度調査では、
自然界の変化を理解するため、証拠に
基づく結論を導き出す能力と定義し
ており、イギリスではこの考え方を支
持している人々がかなり支配的であ
る。もしそうであるなら、英国は古式
豊かな帰納法、つまり個々の具体的な
事柄から一般的な命題や法則を導き出
す習慣が定着していることになる。
このような会話をするにはどうして
も言葉、つまり英語を少々理解してい
ないと話にならないと感じる。しかし、
カミカゼ、カラオケ、ツナミなどは立派に
英語になってしまったし、逆に日本語に
なった英語は数限り無く多く、各種の
文化が渾然一体となった時にこそ異文
化の受容力がためされるのだと、125
周年を迎える今、改めて感じた次第で
ある。



Sachio Naito, Managing Director of Kanto Gakuin

This is a story about when Dr. Diana Walford, Principal of Mansfield College of Oxford University, celebrating their 125th anniversary in two years, visited Ryoanji in Kyoto.

She said that the scenery at the temple reminded her of one police fiction novel written by Jefferson Parker. According to her, a stone called "Suiseki" or "landscape view stone" is mentioned in this novel, and the characters in the story try to see and feel the universe through these stones. I was impressed by her deep insight and knowledge. She also talked about

philosophical issues. According to her, since people in the USA and UK no longer find it hard to make a living nowadays, their sense of value is shifting closer to Zen. Furthermore, she explained why British people always carry umbrellas. Dr. Walford discussed the Program for International Student Assessment announced by the Organization for Economic Co-operation and Development (OECD), and said that "scientific applied skill" can be defined as an ability to draw evidence-based conclusions to understand the changes in nature. In the UK, she said, the majority of people believe this. If this is true, the Traditional Baconian method, or the practice of illicit general

proposition and rules from individual issues, might be well established in the UK. To enjoy this kind of conversation, I always feel badly that we must know how to speak English even just a little for understanding. Over time there have been quite a few Japanese words well recognized in English, such as "Kamikaze", "Karaoke", and "Tsunami", while there are many more English words which have been assimilated into the Japanese language, becoming so called "Katakana words". So I now strongly feel that in our celebration of the 125th year anniversary of Kanto Gakuin, that cross-cultural understanding is being tested in the various cultures blended together in today's world.

学校法人関東学院理事長

内藤 幸穂 殿



関東学院創立125周年の記念にあたり、オックスフォード大学、マンズフィールド・カレッジから、謹んで祝賀のご挨拶を申し上げます。

マンズフィールド・カレッジは、これまで14年間に亘り築き上げた関東学院との親密な友好関係を喜びと致しているところです。この間、本学が迎え入れた貴学の幾多の教授は、それぞれの分野で豊かな学究と研



鑽を積み重ねました。また、貴学の若き学生諸君は本学の学生寮に滞在し、本学が主催するサマースクールに参加して下さいましたことを嬉しく存じております。

私自身は、貴学のお招きにより、光栄にもKGUを訪問する恩恵にあずかりました。印象深い特別な出来事として今も心に残っております。また最近、本学の教授一名が貴学を訪問する機会が与えられました。

本学に対する貴大学の諒恕なる支援への感恩として、2003年には本学が有する最高位の称号であるバンクロフト・フェローシップを貴殿に奉呈いたしました。本学が新築したガーデン館に関東学院の研究者が利用する二研究室と図書室を備えた関東学院センターが開設され、2006年3月3日にその開所式が挙行されました。

2011年には我々自身が創立125周年記念を迎えることになっており、間近に迫ったその時を待望しているところです。

オックスフォード大学、マンズフィールド・カレッジ執行部一同は創立125周年を迎える貴学、理事会に対して心からの祝詞を呈上すると共に、貴学の次なる125年とその後の上に、更なるご清栄がもたられんことを、心からお祈り申し上げます。



オックスフォード大学 マンズフィールド・カレッジ学長

ダイアナ・ウォルフオード



Dear Dr Naito

I send you warmest greetings from Mansfield College, Oxford University and very many congratulations on celebrating your 125th Anniversary.

Mansfield has enjoyed the most cordial relations with Kanto Gakuin University for the past fourteen years. Over this period, we have welcomed a number of Professors from your University who have spent a productive academic year in the College undertaking their own research. Most years we have also hosted a

summer school for some of your younger students. I myself was privileged to visit KGU a few years ago, as your guest. It was a memorable occasion. More recently, another of our Professors was also able to visit your University.

In recognition of your University's most generous support of our College, in 2003 we bestowed upon you a Bancroft Fellowship of the College, the most prestigious award we have to offer. On 3 March 2006, we were delighted that you were able to perform the opening ceremony for the Kanto Gakuin Centre in our new Garden Building, which includes

the two study rooms and library used by the Kanto Gakuin visiting researchers.

As we, ourselves, look forward to celebrating our own 125th Anniversary in 2011, my Governing Body send their very best wishes to your Board of Trustees, for the continuing success of your University over the next 125 years and beyond.

Cordially yours,
Dr Diana Walford
Principal

学院創立125周年記念事業

これまでに実施してきた主な事業・イベント

2006年

- 日露修好150周年の講演とシンポジウム
- 日露文化交流と教育の役割(10月8日)
- 「六浦チェンマイ同時中継子ども交流会」の実施(12月22日)



2008年

- 関東学院史展示会
 - 第1回「建学の精神を求めて」(9月21日～10月11日)
 - 関東学院中学校高等学校新棟竣工式(10月16日)
 - 関東学院中学校高等学校新館献堂式(2008年2月27日)
- シンポジウム
 - 「横浜のキリスト教主義学校教育―横浜とミッションスクール」(10月21日)
- 特別展示会
 - 「近代黎明期における関東学院の建学の精神と伝統文化展」(11月1日～5日)
 - 日韓国際シンポジウム(11月4日)
 - 国際シンポジウム―大航海時代の光と影―(11月23日)
 - 関東学院サビスターニングセンター「献堂式」(12月31日)

2007年

- 関東学院史展示会
 - 第2回「建学の精神と奉仕活動」(1月17日～2月14日)
 - 第3回「戦時下の関東学院―試練と建学の精神―」(7月4日～25日)
 - 第4回「横浜ハリエスト神学校と東京中院」(10月2日～24日)
- キタオフ集会(10月6日)
- 大学工学部企画「第31回エコクリートカヌー」(10月5日)
- 国際ワークショップ
 - 「循環型社会の形成を目指した東アジア地域の都市レベルでの連携と協力の模索」(12月13日～14日)
- 法科大学院企画「刑事模擬裁判の実施」(12月14日)



2008年

- 関東学院六浦中学校高等学校新棟竣工式(1月16日)
- 関東学院六浦中学校・高等学校と「館献堂式」(12月15日)
- 関東学院の歩み展(1月30日～2月20日)
- 展示会「夢としての絵本」(3月1日～5日)
- 第3回HFD展(3月14日～20日)
- シンポジウム
 - 「外から見た日本II―タイと日本の共通点と相違点」(9月9日)
 - 「文学部日中フォーラム―日中の文学・思想における異文化理解―」(3月15日)
- 第1回関東学院チャペルレミアムコンサート(5月28日)
- インターナショナルシアターカンパニーロンドン英語劇「ハムレット」公演(5月30日)
- カマメハミドルスクール歓迎交流会の開催(小学校)(6月2日)

シンポジウム

- 「カンボジア王国における平和の回復と市民の役割」(6月14日)
- 「第7回タイ訪問団」の活動(六浦小学校)(8月15日～22日)
- 演劇公演「青木さん家の奥さん」(10月4日)
- 創立125周年記念祝祭コンサート「フレココンサート」(10月6日)



- 関東学院史展示会
 - 第5回「中学関東学院と財団法人関東学院―テンネと坂田祐」(9月16日～10月15日)
 - インターナショナルシアターカンパニーロンドン英語劇「カンターウィルの幽霊」公演(11月20日)
- 講演会
 - テーマ「越境することは、越境する想像力」(11月22日)
 - 第2回関東学院チャペルレミアムコンサート(11月26日)
 - 「アンティークリスマスグッズ展」(12月10日～21日)
- 関東学院クリスマスコンサート(12月15日)

2009年

- 「大澤記念建築設備工学研究所(大学) 創設40周年記念シンポジウム」
 - テーマ「快適で安全安心、環境に優しい住まい方」(6月30日)
 - 125周年記念「建築連続シンポジウム」建築の今(6月6日～10月10日)
 - インターナショナルシアターカンパニーロンドン英語劇「ロミオとジュリエット」公演(6月5日)
- 特別記念講演
 - テーマ「子供はなぜ遊ぶかではなく、なぜ遊ぶべきではなれないか」(六浦幼稚園)(6月10日)
 - 春学期公開講座「キリスト教とは―関東学院の建学の精神を学ぶ―」(大学)(6月20日～7月18日)
- 講演会「恵子ホームズさんが語る運かなる心の癒しと和解の旅―英国人元捕虜と日本人との和解を通して―」(6月22日)
- 総合研究推進機構開設記念講演会(大学)(6月27日)
- 講演会「弁護士が足りない―2年目弁護士、司法過疎地へ行く―」(法科大学院)(7月11日)
- 「チャペルレミアムコンサート」チエロ4重奏の夕べ(大学)(7月13日)
- 「高校生 詩のコンテスト」～伝えたいこの想い～(大学)(7月17日)
- 「台湾の長榮高級中學(姉妹校)との記念スポーツ交流試合」(中学校高等学校)(7月20日～26日)
- キリスト教と文化研究所 坂田研究プロジェクト 公開研究
 - 第1回「関東学院の教育と坂田祐」(7月25日)
 - 文学部の英語教育を考える討論会
 - 「卒業生を交えて、過去の検証と創立150周年へ向けての模索」(8月18日)
 - 「タイテイワタ子供寮への車の寄贈(六浦小学校)(8月中旬)
 - 「第8回タイ訪問団(タイテイワタ村の派遣)(六浦小学校)(8月中旬)
 - 「ふれあい祭り」(大学)(8月29日)



新棟建設

- 関東学院中学校高等学校新棟建築
- 関東学院六浦中学校高等学校2号館建替



関東学院中学校高等学校新棟(2008年2月完成)

募集企画

- 「学院シンボルマーク&イメージキャラクター」の募集(2008年10月11日入賞者表彰)
- 「社会貢献学生アクトイビティ」募集(大学)
 - (第1期)5件採択
 - 開発途上国における生活環境整備に関する研究
 - ミャンマー連邦の第2次産業活性化のための技術支援
 - タイ北部山岳少数民族生活向上支援ボランティア活動
 - 劇「お話」による子育て支援ボランティア活動
 - 久保せも中国内モンゴル庫倫旗植林活動
 - (第2期)4件採択
 - やめないでECO!!
 - WITH400 My Heart Will go on
 - 追浜こまに亭&フィナーリ リニューアルプロジェクト
 - Smile to Smile
 - (第3期)5件採択
 - 10年後のわたしの「くらし」
 - 照沼セミナル地域子育て応援事業
- タイ北部山岳少数民族生活向上支援ボランティア
- ミャンマー連邦の第2次産業活性化のための技術支援
- 「スペースダンスインザチューブワークショップ」@鎌倉材木座ピーチ

その他出版物等

- シーボルトコレクション植物図譜 出版(2008年9月)
- 「大学へ行こう」映像制作(2008年7月27日再放送8月31日)
- 「学院歴史紹介DVD」制作
- 「125年史」出版
- 「関東学院の源流を探る」出版
- 記念グッズの作成
- 研究叢書「パプアニューギニアの宣教と社会的貢献」出版

創立記念事業告知

創立125周年を記念して学院各校がそれぞれ特色ある事業を企画しています。広く一般に公開する事業(行事)もありますので、ぜひご参加ください。詳細につきましては、学院ホームページをご覧ください。
<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/125.html>

「今後予定している主な事業イベント」(開催日順)

- 9/10 関東学院大学エッセイコンテスト(大学)
 テーマ「心にのこる最高の先生」[社会貢献とわたし]
- 9/12・13 ETロボコン南関東大会(大学)
- 9/22 関東学院125周年記念音楽祭
- 9/26 キリスト教と文化研究所 坂田研究プロジェクト公開研究会
 第2回「関東学院の教育 -坂田祐の教育理念と白雨会-」
- 10/3 秋の屋外なかよし会(運動会)(小学校)
 <学院創立記念週間(10/6~12)>
- 10/6 創立記念祈祷会 大学礼拝堂
- 10/7 祝祭コンサート 横浜みなとみらいホール 大ホール



L.v.ベートーヴェン	序曲レオノーレ第3番	指揮	金昌国
F.メンデルスゾーン	ヴァイオリン協奏曲 ホ短調作品64	管弦楽	アンサンブルのftウキョウ
W.A.モーツァルト	オペラ「フィガロの結婚」 「テイトの慈悲」より アリア「恋の悩みを知る君は」 他2曲	独奏	ヴァイオリン 小林美恵
W.A.モーツァルト	荘厳ミサ KV337	独唱	ソプラノ 澤江衣里 メゾソプラノ 永井和子 アルト 永井和子 テノール 中嶋克彦 バリトン 今尾 滋
		合唱	関東学院 創立125周年記念 祝祭合唱団

- 10/10 創立125周年記念式典 パシフィック横浜会議センターメインホール
 記念レセプション ロイヤルパークホテル
- 10/10・11 第29回 本田宗一郎杯Hondaエコノパワー燃費競技 全国大会出場
- 10/12 外国人墓地記念会・「記念碑」完成披露式
 (横浜山手、中央区築地、三春台校地)
- 10/7~15 タイ ティワタ村の子供及び引率者の記念式典等への招待(六浦小学校)
- 10/17 記念シンポジウム「バプテストの伝統を持つ教育機関の現代的教育使命」
- 10/31・11/3・8 大学ホームカミングデー
- 10/24 院内英語コミュニケーションコンテスト
- 10/27 インターナショナルシアターカンパニーロンドン英語劇
 「クリスマス・キャロル」公演(大学)
- 10/31 ワークショップ「ホールシステム・アプローチを体感する“Imagine YOKOHAMA”
 から始まる横浜の未来」
- 11/10 創立125周年記念芸術鑑賞(六浦中学校・高等学校)
- 11/14 幼児・児童向けオペレッタ上演(野庭幼稚園)
- 11/21 記念コンサート(六浦幼稚園)
- 11/28 講演会(チャプレン会・小学校)
 テーマ「関東学院の奉仕教育 ルワンダでの和解の働きのために一佐々木
 和之の働きを通して」
- 12/18 学院クリスマスコンサート 横浜みなとみらいホール 大ホール
- 1/26・27 記念音楽会 神奈川県民ホール 大ホール(中学校高等学校)

- ◆前号(No.37)でご案内した「関東学院フェア」は、諸般の事情により5/31~6/2の実施を取りやめました。ご迷惑をおかけした皆様に深くお詫びいたします。
- ◆2009年度記念事業につきまして、実施内容を変更する場合がありますのでご了承ください。

創立125周年記念事業募金の報告

関東学院ファミリーの底力

この2009年3月末現在で、4,950件、3億7千万円を超えるご寄付をいただき厚く感謝いたします。今回の募金事業は、2006年11月より関東学院中学校高等学校の新校舎建築のためのオーブグリーン募金がいわゆるプレ募金として発足したのが最初であります。その後、2007年9月より正式に関東学院創立125周年記念事業の一環として、各校の「オーブグリーン募金」、そして大学の「大学奨学基金」「スポーツ・文化振興資金」「大学振興資金」等の募金事業が開始されました。

関東学院としての募金事業は、ちょうど今から25年前、創立100周年記念として行われた以来であり、この間、中学校高等学校と小学校での小規模な募金活動しかありませんでした。その理由は、私の知る限りでは、学院を預かる経営者にとっては、「学費の中には施設費もいただいており、これ以上のご負担をさらにご父母の皆様にお願ひするのは心苦しい」との考えがあり、大規模な募金事業は、実施され

てこなかったのです。

この募金事業は、その目標額を達成することも重要ですが、125年の長い歴史の節目をご父母、卒業生、企業、法人、そして教職員はもとより、退職された教職員など関東学院を取り巻く全ての方々と共に祝い、語らい、それらの熱き思いを将来の関東学院に繋いでいくことに重点を置いております。

しかし残念ながら、大学を始めとして多くの学校において、卒業生とのコミュニケーションは、主に同窓会を通した形のネットワークしかありませんでした。

この記念事業を機会に何となくでも卒業生一人ひとりとのパイプを再構築し、その関係に改善を図ることが、この記念事業のひとつの目標であります。卒業生からの具体的なご意志の現われがご寄付であり、また、そのご意思を受けて記念事業を成功させることが本学院の使命であると考えております。

また、募金活動を通じて得ることができた大切なものが二つあります。

一つは、卒業生が在学中に授けられた建学の精神を始めとして、授業や課外活動を通しての教職員

や友達とのふれあいの中から自然と醸成された「愛校心・帰属意識・感謝の気持」が、募金活動にとって大きな原動力になっていることであります。

そしてもう一つは、関東学院中学部(中学校高等学校の前身)をご卒業された100歳の大先輩からのご寄付や幼稚園、小学校、中高、大学と満遍なくなされたご寄付、5、6回もの多くの回数にわたる熱い思いのご寄付、北海道から沖縄まで全国の卒業生から、さらには、ご夫婦、兄弟姉妹、父母、祖父母の家族そろっての「関東学院ファミリー」からのご寄付をいただいたことであります。

これらの大切なものこそ、125年前に多くの先人が苦勞の上に蒔かれた一粒の種が、横浜の地に深くしっかりと根付き、大きく育った関東学院ファミリーの底力であると実感しております。

今後とも関東学院ファミリーの皆さまの一層のご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

創立125周年記念事業募金局
 事務部長 安倍和夫

時田 信夫

Nobuo Tokita (1899-1990)

本学教授／宗教主事／優れた通訳者



時田信夫

金沢八景キャンパスの取得に貢献

『関東学院大学三十年の歩み』に掲載された座談会の中で、大学草創期にかかわった方々が対談している。相川高秋によれば、関東学院は、敗戦後は翼を失った航空工業専門学校は工業専門学校に、戦時下政策で他校に併合を余儀なくされた高等商業部を経済専門学校として復活させること、そして新たな時代を切り開くために女子専門学校を新設することにした。そこで校地を物色して、今日の金沢八景

キャンパスの地を探し出した。責任者たちは、先ず敗戦後の残務処理を担当する旧海軍省の出張所と交渉したが、全く話が進まなかった。最後の手段として、占領政策を遂行していた連合国総司令部(GHQ)に直接に交渉するために出かけた。時田はこう回顧する。

「私はあの頃は、関東学院ではなくて、捜真女学校に勤めていました。古賀先生が来られましてね、『通訳として一緒に行ってくれ』と頼まれて、GHQに行ったのが、昭和20年の10月31日と12月6日と7日です。そのとき大蔵省に提出する書類を英訳したのです。それから12月10日に、GHQの教育本部に行ったんですね。そうして昭和21年の1月6日の日曜日朝早く、GHQに提出する書類を清書し、午前9時に来られた古賀先生にお渡ししたのです。それから1月8日に、相川、古賀、時田の3名がGHQの教育本部に行き、そこでメイジャー「少佐」アロウウッドという方に会ったのです。その次に大蔵省の国有財産の関口事務官を訪問しました。午後上野広小路にある東京財務局に行きましたら、またメイジャーアロウウッドに会ったんですから、一生懸命に訴えました。

1月11日にまた、相川、古賀、時田の3名は東京財務局に行き、さらにGHQに行つて、メイジャーフアーに会いました。その時、フアーが『君の方は三番目だから見込みがない』といったのです。『それなら何故その事をもっと早く知らせてくれなかったんだ。私たちは随分、ムタ足をしたことになる。』関東学院はもう三春台だけでは狭くてどうにもならないんだから、なんとかしてくれないか。そのかわりに、私がただで、一ヶ月間GHQで働く。通訳でもする

し、翻訳でもなんでもやる』と。そうしたら、メイジャーフアーが笑い出してですね。『実はその、みんなが訳せなくて困っているのがつある。それは戊辰詔書だ。それを訳してくれるか』といったから『やりましょう』といって、戊辰詔書を訳したのでです。…

これをメイジャーフアーの見ている前で、どんなに訳して、彼に見せますと、『ああ、これならわかる』といつてから、『ありがとう、あなたの努力を高く評価して、あなた方の願いを実現出来るように努力してみよう』といつてくれたんですね。それで、その後、許可証が来たんです。私は、大いに関東学院の為に尽くすことが出来たと喜んでいるのですよ。」

戊辰詔書は1908(明治41)年に公布されたもので、教育を通して国民道德の作興をはかる内容のものであった。教育勅語に似て難解な日本語で書かれていた。時田は漢語も解することができたし、しかも堪能な英語力を用いて明解な英文に訳すことができたのである。

生い立ち

時田信夫は『感謝 八十八年』(1987年)のなかで、生涯を振り返って語っている。

時田は1899(明治32)年7月16日横浜市中区日之出町駅近くにあった横浜美普教会の牧師館で生まれた。父親の大一は山口県出身で、同志社に学んだ人である。母親のたづ(田鶴)は広島県三原の蘭学者、医師の娘で、大阪の梅花女学校、さらにアメリカのウェスレー女子大学を出た。彼女は横浜英和女学校で教師をしている。婦人矯風会横浜支部長として禁酒運動、娼妓の自由廃業、南米移民の結婚斡旋などに

貢献し、社会的活動家として知られた。父親、大一は内村鑑三に傾倒して、やがて担任していた教会を辞任し、同じ信仰の仲間と共に無教会主義の「中村集会」を始めた。彼らは生活のために会社を起こしている。

信夫少年は、横浜中区の石川小学校に入学したが、2年生から5年生までは元町小学校に通学、6年生は石川小学校に戻って卒業した。その後、横浜市西区藤棚にあった神奈川県立第一中学校に入学した。

時田は次のように1914年当時を回顧している。

「3年「生」の頃からだんだんと学校の中心が軍国主義的になりまして、みな軍人志望、海軍兵学校へ行くか陸軍士官学校へ行くというようなわけで、学問をしようとか宗教に進もうという人は殆どいない状態でした。私は水泳をやったり長距離ランナーとして走ったりテニスをやったり、いろいろ運動をしていましたが、いつも日曜日は集会に出席するために試合に出ることができなかったで、仲間と行動を共にすることができなかつたのであります。」

時田は立教大学商学部に進学した。しかし予科から本科に進む際に、文学部哲学科に進路変更をした。父親の勧めもあって、毎日曜日は内村鑑三の集会に出るようになっていたので、その影響があつたのである。大学生活について次のように記している。

「立教大学在学中は、予科と本科の前期を築地の校舎と寮で過ごし、本科一年の後期から、池袋の新校舎と寮で生活いたしました。本科3年には、再び築地にもどり、立教中学寄宿舎副舎監をいたしました。在学中には、テニス部、弁論部、購買部、YMCA「塔」の編集、立教タイムスの編集な

ど、広く関係して、実に愉快な有意義な学生生活を送らせていただきました。

武藤「安雄」先生には、『オセロ』などを講読していただきました。…大正12年に関東学院に就職しました時、東京帝国大学で武藤先生と同級であった高田運吉氏が教頭でもあり、英語科の主任でありましたので、私を非常に高く評価してくださいました。これも武藤先生のお人柄の影響と感謝いたして居ります。」

時田は大学2年生の時に、山手75番地にあった横浜浸礼教会(今日の日本バプテスト横浜教会)を訪ね、当時の植山寿一郎牧師から1918年8月11日にバプテストを受けた。

関東学院との接点

時田は1923年4月に中学関東学院の教員になった。実はその年の9月1日に関東大震災が起こった。新築間もない校舎が倒壊し、学生も減少して、学校運営と再建の努力は決して容易ではなかった。彼は学校に残り、聖書と英語を担当した。

1924年10月、時田は関東学院の教員のまま横浜浸礼教会の牧師に選任された。当時のテネシー学院院长は時田に牧師として立つために常によく助言を惜しまなかった。それまで、時田は正式に神学教育を受けていなかった。そのため、時田はテネシーと千葉勇五郎の推薦を受けて、ニューヨーク州のパプテスト系のロチンスター神学大学院に留学することになった。彼は1930年から1933年までここに学んだ。

帰国後

1933年6月に帰国して、時田は日本

バプテスト東部組合主事に任命された。4年半、彼は主事として全国を駆け回った。その後、時田は捜真女学校で教えることになった。時田はこう記す。

「坂田」先生は関東学院に招くわけには行かないが、捜真女学校の宗教主任になつてくれと言われたのです。私は女子教育には経験がないと思いましたが、宗教主任になり、捜真女学校に学校教会を始めまして、牧師ともなり、戦争がだんだん難しい状態になつていく昭和13年から20年まで働いたのであります。専門部もありまして、英文科、家政科で、外国人の先生がだんだん引き上げて行つたあと、英語の会話、英文学、文法、英作などいろいろ教えました。」

1945年5月29日の横浜大空襲の日には、時田は生徒を引率して川崎の東芝電子研究所に出かけていた。時田の言葉をそのまま引用しておこう。

「横浜の大空襲が始まりますと生徒を連れて横浜に帰ることになりましたが、もちろん鉄道は使えませんので、線路を伝って燃えさかる鶴見、子安方面、神奈川と、だんだん横浜に入つてまいりました。生徒たちを家のあつたところで帰して、横浜駅をとり高島町から電車道(市電)を伝いながら関東学院下までまいりました。関東学院の近辺には焼けただれた死体がたくさんありました。運動場にも無数の死体がありました。人々は助かると思つて来たのでしようが、あいにく罹災してしまつたのです。尚黄金町駅付近でもたくさんの方が亡くなつていました。それらを見ながら火の間を縫つて…自分の家の方まで見ましたところ、自分の家も焼けて無くなりました。…人々に聞きながらあちこち探

してやつと家族のものに会い、…その日、家族の居所を確かめるとすぐ横浜教会(焼けてコンクリートの外郭のみ残る)に行つてみました。娘がまだ一人帰つていなかったの、探しに捜真女学校まで行き、岡本主事の家に居た多恵子を連れて又火の中を歩いて帰つて来たのです。ですから5月29日は川崎から「横浜市」南区唐沢まで歩いて帰り、それから捜真女学校まで往復したのです。今考えるとよくもできたと思うほどです。そのため関東学院の焼け跡、捜真の焼け跡、教会の焼け跡をみてしまつたわけです。」

時田はその日、空襲の焼け跡と尚燃えさがる残り火の間を40キロメートル歩き回つたことになる。45歳の時のことであつた。1942年2月から横浜浸礼教会の牧師を兼任していたこともあり、時田一家は廃墟となつた教会堂を確保し、再建するためそこに住み着いた。そして集会を継続した。

再び関東学院へ

時田は再び関東学院へもどりたいきざつを先に引用した座談会で述べている。

「当時坂田先生は、関東学院と捜真女学校の両方の校長をしておられまして、私に対し『君ね、関東学院の先生になれ。捜真の方はやめる』といわれました。そんな経緯で、私は捜真女学校から関東学院に移りました。関東学院に来ますと、坂田先生から『君は女子専門学校の方の宗教主任をやれ』といわれましたから、私は坂田先生に対して『私は今まで女学校で自分の子供を教えるので閉口しているんですよ』と申しましたら、『君は娘しかいないだからかまいやしない』といわれたのです。坂

田先生は自分の子供がないもんですから、子供が教室にいて、教えるくらい辛いことがわからないのです。…全く困りました。其れでもそのお蔭で、とうとう関東学院大学の先生になった。」

坂田はもともと男子校で始まつた関東学院に女子専門学校を作るにあたり、時田の女学校の経験を関東学院において活かしてもらいたかつたのである。こうして、1946年から時田は新たにスタートした関東学院女子専門学校教授に就任した。英語、倫理、教育学を担当した。

1949年、学制改革にともない関東学院大学が設立された。先ず経済学部講師になり、1953年には経済学部教授となつてゐる。また1959年に神学部ができて、その兼任教授ともなつてゐる。時田は、英語、教育学、教育史、キリスト教倫理学、その他の科目を教えた。時田は依頼された担当科目や仕事は自分からは決して断ることなく、忠実にそれを果たした。そのために多忙な毎日を送つた。時田は、役職を求めめるのではなく、自分に託された役割を謙虚に淡々と遂行したのである。時田はこのポリシーを他の人に求めたが、必ずしも他の人から理解されなかつたようである。

時田は捜真女学校理事長職を1963年から1980年まで果たした。キリスト教史学会理事を1970年から1976年までつとめた。1970年11月には、教育功労を認められて、勳四等瑞宝章を授与された。1978年には大学名誉教授に推された。

1986年に44年間、時田を支えたふみ夫人が天に召された。1990年1月7日に時田は天に召された。享年90歳であつた。



すぐれた英語通訳者

1962年8月号で関東学院の英字新聞『ザカントータイムズ』は「われらの教授が通訳歴40年目を迎える」という記事を掲載している。これは記者名が記されていないが、本学英語教授であった詩人でもあるWエリオットが書いている。

「外国から日本を訪れる人々は、日本語がわからないので困惑する。この苦境から彼らを助けてくれる多くの通訳者のなかで、最も頼れる助人が時田信夫である。彼は金沢八景キャンパスで活動する宗教主事であり、教授である。彼は1922年に通訳者としての任務を横浜第一バプテスト教会で開かれていた夜間英語学校で始めた。そこではフィッシャー、グレースェット、タッピン、グ、コベルなどの宣教師が教えていた。

1930年に時田は神学教育を受けるために渡米した。1933年に帰国して、

彼は日本バプテスト東部組合の主事になったが、多くの外国からの著名人の通訳をしてきた。そのなかには、アメリカ外国宣教協会主事、デッカー博士、世界バプテスト連盟総主事、ラッシュブルック博士もいた。

1945年以来、関東学院大学教授として、本学で行われた外国からの来賓や日本在住の多くの著名人の講演や説教を通訳してきた。アメリカバプテスト関係では、フリーデル、森川、ライソン、ソーンターズ博士たち、シアーズ夫人がいた。さらに世界的に知られたスイスの神学者E.ブルンナー博士、アメリカの神学者N.フェレー博士もふくまれる。この人たちの講演は、真にふさわしい日本語に訳された。時田の貢献は学校や教会に限定されない。今でも、時々、英語を話す被告のために裁判所では通訳の奉仕をしている。興味深いことだが、戦後まもなく、連合国のマッカーサー総司令部の求めに応じて、1908年に天皇から公布された『戊辰詔書』を翻訳している。」

英語を母国語とする英語教師たちも敬意を払うエリオット教授は、時田の英語の実力を高く評価した。

人となりと思想

時田はもともとスポーツマンであった。そのためか明朗で淡白な性格の人であった。1959年に「永遠の青年」、1965年には「宿命よりの解放」というエッセイを書いているが、真にその趣旨を自ら具現して生きた人であった。理屈をこねまわさず、語ることはわかりやすかった。バランス感覚を備えていた人であった。神学的立場は、若き日にキリスト教のリベラリズム旺盛なロチェスター神学大学院に学んだので、その影響が時田の著作や説教には顕在していた。し

かしもつと若き日に、内村鑑三の講義を直接に聞いた経験は、彼の心の奥深くに動かぬ聖書的な信仰として生涯存続していたと言える。彼の思想の一部を紹介しておきたい。

「霊体の基督」

「私は22才の頃、東京の赤坂区青山南町6丁目の平出慶二氏方で安倍千太郎氏に遭ったのであるが、それは私の信仰の生涯に於いては一大飛躍のときであった。安倍千太郎氏は東京大学に在学中、ハンセン病になったので、失望のあまり、自殺しようとしたのである。それで同氏は有名な笹尾鉄三郎先生の家に預けられたのである。笹尾先生は安倍氏に向かっていた。『君は病気の事を気にしなごさるな。我々健康な者も遅かれ早かれ死ぬのだ。大切な事は信仰を得て、永生を得る者となることだ』と。ある晩、夜半に安倍氏が便所に行つて、手洗のため戸を開いて庭を見た所が、笹尾先生が午前2時頃に、庭に跪いて熱心に祈つて居られた。しかもその隣にイエスキリストの如き御方が共に祈つて居られたのである。安倍氏は驚いて、翌朝笹尾先生に『昨夜先生と共に祈つて居られた御方はキリストのように見えましたが、どなたでしたか』とたづねた。笹尾先生は平然として答えられた。『死にて魅り給ひしキリストイエスは神の右にいまして、我らのために執成し給うなり』(ロマ8章34節)とあるように、活けるキリストは何時も我々と共に居てくださるのである』と。

私は安倍氏からこの話を聞いた時、頭を叩かれたように感じた。その時までは私の信仰は、二千年前の歴史上のイエスに対する、後向きの信仰であった。心の眼が開けて気がついて見れば、霊体のキリストが

我々と共に居まし給うのである。…キリストと共に歩み、キリストに導かれつつ進むところに生き活きとした現在の信仰生活があるわけである。過去のキリストではない。現在および将来のキリストである。…

私は主イエスキリストを仰ぎ見ることによつて、何時とはなしに、次第次第に、キリストイエスの心をもって心とする生活に導かれつつあることを感じている。自己の欠点を反省しているばかりでは、我々の人格は決して聖化されない。我を忘れてキリストに心奪われている間に、我々は聖化されていくのである。『ジェニンス編』唯一回のみ「シリーズ19054年」

これは余計な説明を付加する必要はない。時田の文章をそのまま味わっていただきたい。

「内村鑑三先生の教授法」

時田は、立教大学在学中の5年間、毎週日曜日に行われた内村鑑三の聖書研究会に出席した。内村鑑三が65歳頃のことである。その印象をこう記している。

「先生の容姿はアルベルト・シュヴァイツルによく似ていた。彼の聖書講義は毎回新鮮な宗教講演であった。彼は毎回愛憎の激しい感情を爆発させ、個性的な意思をさらけ出し、全力投球のような勢いで説教した。私は大正6年から内村先生の弟子として数年間、聖書の連続講演を聴いた。『ヨブ記』と『ロマ書』に関する講演が最も深い印象を残している。大正7年に始まった『キリスト再臨運動』の時から、先生は全国的な大伝道者となった。私は東京、横浜の大会には殆ど全部出席した。彼の講演は大衆伝道者としても非常に魅力あるものであった。彼の信仰は正統派でイエスの処

女降誕、奇跡、十字架の贖罪、復活、永生、キリストの再臨、万物の復興など実に力強く証詞していた。彼の信仰は単純で、生命がけの熱烈なものであった。」「告知板」1967年12月)

初めて内村鑑三にお会いした時のことを時田はこう記す。

「内村先生は、私の父と親しかったので、私は父の紹介状を持って、先生の御宅を訪問した。すると先生は、応接室で私を床の上に座らせ、大声で私に言われた。『お前は時田大の息子か』と。私は『そうです。よろしく御願いたします』と答えた。すると先生は、再び大声で言われた。『お前は、毎日曜日必ず続けて出席する決心か』と。私は、大声で『必ず来ます』と答えた。すると先生は、もう一度とられた。『本当か』と。私は大声で、『はい、必ず出席します』と答えた。すると先生は、『よし。それでは日曜日に来て御覧』と言われた。』」

これが入門の儀式であつたらしい。前半は威嚇的でさえあるようだが、最後の内村の言葉に慈しみがあふれている。『よし。それでは日曜日に来て御覧』。二人の若者がイエスのところに来て、「先生、どこに泊まっておられるのですか」と問うと、イエスは「来なさい。そうすれば分かる」と言われた。(ヨハネ1:38)福音書の記述を思い起こさせる。

「日曜日の朝10時頃、私は『今井館』に到着した。ところが驚いたことには、山岸壬五が入り口のドアに鍵をかけようとしておられた。私は、大急ぎで中に入った。(その時以来、学校でも、集会でも必ず、10分以上早めに到着するようになった。…)普通の教会では、遅刻しても、誰もなんとも言わない。又、時間の事をやかましく言えは、

誰も教会に行かなくなるだろう。ところが、内村先生の集会では、全員が15分以上早く出席し、着席し、開会を待っているのがある。しかも誰一人雑談する者はいなかった。全員が無言で、真剣に、聖書を読んでいるのである。私は深い感動を与えられた。私は、空席を見つけて着席した。』

今日、このような学ぶ者、礼拝する者の側の厳しさを、真剣さが、教会にも、学校にも失われてしまったようである。

「やがて、先生の居宅のほうから蓄音機で、パツパのオルガン曲が聞こえてきた。そして、先生の足音が聞こえてきた。先生が入ると、会衆一同が立ち上がつて、敬礼した。

愈々、集会が始まった。先生は着席されるやいなや、大声で世界全体のために熱烈な祈禱をささげられた。そして、讚美歌も交読も聖書朗読もなく、いきなり、先生は、『うん』とうなりながら、誰かを指すのである。すると、指された人は起立して、聖句を暗誦するのである。(その聖句は、一週間中に感激したものでなければならぬ。)

その後で、聖書講義が行われたのである。此の第一回の『実物教育』は、私の生活に大きな影響を与えた。私は、翌朝から早起型に変わった。聖句の選択と暗誦のためであった。』

内村の熱烈な祈りは、四面楚歌、苦難に満ちた彼の生涯を支えたものであった。また内村は、聖書の言葉が今も活きた神の言葉であることを弟子たちに実体験させたのであろう。時田はこれに深く感動した。そしてこれを直ちに実践した。

もう一つの講義にも、時田は出席した。「内村先生は、畔上賢造、藤井武平、出慶一と共に東京聖書学舎を始めた。これは夜学で、平出慶一氏宅で開かれた。内村先生は、聖書地理を担当された。先生は、最初の講義の時間に挨拶もされず、講義もされなくて、我々15人の第一期生のテストをされた。先生は、中東の地図を示しながら、『時田君此の町は何処だと思ふ。此の町について知っているだけ話して』と

いう具合であった。私は、学問は講義を筆

記して、テストの時に暗誦することではなく、自分で研究して、先生に報告することであることを悟った。』

時田は従来の講義聴取型ではなく、参加型の学習にかなりの刺激を受けたようであった。「内村鑑三の教授」に啓発されて、関東学院に学ぶ者すべてに次のよう勧める。

「今回、関東学院に入学された諸君は、幼稚園児も、小・中・高校生も、短大生も、大学生も、大学院生も、一人一人、君自身が主体的に、自発的に、常に好奇心をもつて、熱心に研究に励んでいただきたい。関東学院の校訓『人になれ 奉仕せよ』は、学生・生徒の時代から一生涯、実行して行くべきことを忘れないでほしい。

イエスキリストは、『神を愛し、人を愛せよ』と命ぜられたが、諸君はこれを実行するために、ぜひ聖書の愛読と祈禱の生活を一生涯続けていただきたい。』(『いんまぬえ』第8号 1976年4月)

in January 7, 1990, at 90 years old. Professor Tokita has been acclaimed not only as an educator but also as an excellent English interpreter. He served many foreign VIP guests, such as executive directors from the American Baptist Foreign Mission Society and the Baptist World Alliance. Many English teachers have shown great appreciation for Tokita's language skills.

Tokita was basically a sports-lover, and he was an openhearted and frank person. He wrote the essays "Eien No Seinen (Forever a Young Man)" in 1959, and "Shukumei Yori No Kaihou (Free From Destiny)" in 1965, which showed the ideas that were truly reflected in his life. He spoke clearly in understandable words, and had a good sense of balance. Since he had studied for the Master of Theology at Rochester Graduate School of Theology in his youth, his studies and their affects on his theological ideas can be seen in his writings and speeches. Most of all, when he was studying at Rikkyo University for five years, he used to attend lectures and bible study classes by the Christian philosopher, Mr. Kanzo Uchimura. These academic experiences had a great influence on Tokita's religious faith and remained deep within his soul throughout his life.

Professor Nobuo Tokita (1899-1990)

Professor Nobuo Tokita was born at a parsonage of the Methodist Church in Yokohama in 1899. In his childhood, he attended church every Sunday. During his second year at the College of Business in Rikkyo University, he was baptized. He became a teacher in 1923 and a pastor in the following year. With recommendation letters by then the president of Kanto Gakuin, Dr. Tenny and Dr. Yugoro Chiba, Tokita studied at Rochester Graduate School of Theology in New York from 1930 to 1933. After World War II, he was appointed as a professor at the newly opened women's academy of Kanto Gakuin. He taught theology, English, and math. After Kanto Gakuin was established as a university organized under the new post-war educational system, Tokita transferred to the College of Business in Kanto Gakuin University in 1949 as a lecturer and later became a professor in 1953. He also started to teach at the College of Theology as a professor in 1959. From 1963 to 1980 he was president of Soshin Girls' School and served as commissioner of The Society of Historical Studies of Christianity JAPAN from 1970 to 1976. Praised for all his educational achievements, Professor Tokita was honored with the Orders of the Sacred Treasure (fourth degree) in 1970. He passed away

神の導きか!? はからずも市長に

日立市長
榎村 千秋 氏

(聞き手：関東学院大学経済学部長 望月 正光 氏)



望月 お忙しいところ、お時間をいただきありがとうございます。
榎村 こちらこそ遠いところまでご足労いただき恐縮です。望月先生は経済学部長でいらっしゃるようですが、私は経営学科の第1期生なんです。
望月 改組転換で経済学部から経営が独立して学科ができた時ですね。
榎村 そうです。私の学生番号は623043でした。62は1962年、3は経済学部、43は経営学科で43番目という意味だと思います。忘れられない番号です。
望月 すごい記憶力ですね。在籍当時の思い出はどんなことでしょうか。
榎村 私はあまり勉強熱心な学生ではなかったのですが、真つ先に思い出すことといえば入学後すぐにカヌーの同好会に入って練習に熱中していたことです。現在は埋め立てられています。当時は六浦まで平潟湾が広がっていて、キヤンパスの目の前は広い海でした。ボラが群れをなして泳いできたりしたものです。カヌーの練習場としては最適の場所でした。カヌーは昭和39年の東京オリンピックに焦点を合わせて白山源三郎先生が創設された同好会で、練習は相当厳しく、夏には相模湖の競技場で合宿していました。その練習時に拾



った珍しい石を捨て難くて未だに持つているというのも、カヌーに対する愛着なのかもしれません。
望月 学生時代に熱中できるものと出会ったというのは素晴らしいことだと思えます。いろいろな関わりの中で影響を受けた先生はいらっしゃいますか。
榎村 カヌーの白山先生は気さくにお茶に誘って下さったし、ゼミでお世話になりました。北見俊郎先生は結婚式にも出席して下さいました。それから、カヌー部の顧問をされていた先生と下宿でお酒を酌み交わし、先生が酔いつぶれて泊まっていたことがありました。どの方も素晴らしい先生で、何気ない語り合いの中で生き方を教えて下さる、それが私の人格教育になっていたと思います。
望月 先生と学生の人間関係の密度が濃かったんですね。

榎村 忌憚なく話せる環境がありました。ですから、楽しい学生生活でしたね。
榎村 私はキリスト教にも関心がありました。キリスト教の精神は人生訓に通じるからです。当時、キリスト教概論Ⅰ・Ⅱは必修でしたから、キリスト教についてある程度の知識は身につきました。ただ、3年次はキリスト教概論Ⅲが必修ではないため履修しませんでした。あれは履修しておけば良かったと今になって後悔しています。
望月 その時のキリスト教概論はどなたが教えていらっしゃいましたか。
榎村 時田先生でした。その時は社会に貢献したいというほどの志はなかったのですが、キリスト教の精神には教えられることが多いので、履修しなかったのは失敗でした。
望月 卒業後は出身地の茨城に戻られて茨城県庁に就職されたわけですから、やはり故郷の役に立ちたいという気持ちがあったのだと思いますよ。
榎村 そんな高邁な志ではありませんでした。私は実業家になりたいと考えて経営学を学んだのですが、人生は思い通りになりませんね。その時は自然の流れで茨城県庁に入り、公務員として人生を全うできればと考えていましたが、なぜか市長になつてしまったわけです。
望月 先ほどからのお話では、謙遜していらっしゃるけれども、何ごとも真摯に向き合つていらっしゃる、市長になられたのは神の導きかもしれませんよ。





櫻村 千秋氏 略歴

【職歴】

平成5年10月 総務部知事
公室秘書課長
平成8年4月 総務部地方課長
平成10年4月 総務部知事公室長
平成11年2月 茨城県を退職
平成11年5月 日立市長(1期目)
平成15年5月 日立市長(2期目)
平成19年5月 日立市長(3期目)

現在に至る

編集後記

関東学院大学を卒業後、故郷に帰り茨城県庁に就職、その後思いもかけず日立市の市長となり、現在3期目を務めておられる櫻村市長。学生時代はカヌーに熱中していて勉強熱心ではなかったと謙遜されるが、日立市の将来を熱く語る姿には、関東学院の「人になれ 奉仕せよ」を具現したようなオーラが漂っていた。

日立市は豊かな関東平野の北端、茨城県の北東部にあり、南北25.9km、東西17.9km、面積225.55²を有しています。西は阿武隈山系に連なり、東は起伏に富んだ太平洋の海岸線を臨み、穏やかな気候、山・海の豊かな自然環境に恵まれています。明治時代から、鉱業、電気機械産業を中心とする近代産業が発展し、日本有数の工業都市として成長してきました。本市には、長い歴史を物語る貴重な文化遺産が数多く

あり、先人たちの確かな息づかいを今に伝えています。また、南北に続く海岸線には6つの海水浴場があり、奥日立きららの里、かみね公園など四季を通じて人々が集う生き生きとした県北の交流拠点でもあります。



Living with the spirit behind the foundation of Kanto Gakuin – Interview with an Alumnus – Chiaki Kashimura, Mayor of Hitachi City

The Business Department was established at Kanto Gakuin University in 1962. Mr. Chiaki Kashimura, the present Mayor of Hitachi City, entered the Business Department as one of the students in that first class with the aim of going into business. He talked about the landscape surrounding the campus in those days and his school days when he was a member of the canoeing club, passionately practicing canoeing. He said that he learned how to live his life as a human being through close relationships with teachers at Kanto Gakuin, and he also said that his character was formed through the education based on Christian principles that he received there. After graduation, he had to give up his dream of becoming a businessman and return to his hometown in Ibaraki due to various circumstances. He then started working at the Ibaraki Prefectural Office. He later became the Mayor of Hitachi City. Saying that God may have led him to become the mayor, Mr. Kashimura talked enthusiastically about the future of Hitachi City and its citizens. Practicing the motto of the Kanto Gakuin “Be a man and serve the world,” he is an alumnus of Kanto Gakuin in every sense.

望月 櫻村さまが考える日立市の将来展望とはどんなことでしょうか。
櫻村 今、日本は国も地方自治体も財政が逼迫しています。思い通りにやろうとすれば住民の負担が重くなるばかりです。しかし、これを何とかしなければならぬ、少子高齢化が進む中で魅力あるまちをつくるには、都市基盤の整備が最重要になります。それには予算の問題もありますが、ハード、ソフトの両面で創意工夫を重ね、10

櫻村 そうです。既に日立製作所O.B.で

年ぐらいいのズパンで実現したいと考えています。
望月 具体的にはどういう方策を考えられていますか。
櫻村 人口減少傾向の中で、学校教育と職業教育、そして医療制度の充実を図らなければなりません。日立市は日鉱金属や日立製作所を中心にモノづくり企業が集積する工業都市です。中でも日立製作所には2000人も博士号所持者がいます。そういう方たちがリタイアされた後、その力を教育の場で活かして次代を担う人材を育成するとともに、職業訓練を充実させて人が集まるような日立市にしたいと考えています。
望月 都市基盤を整備された上で、日立市が持っている知的財産を活用して人材を育成することが日立の将来につながるということですね。

組織された「日立理科クラブ」では、小学校での実験実演や授業支援、中学生への専門指導を行っています。
望月 市長という重責を担われる中で、関東学院の「人になれ 奉仕せよ」という建学の精神がどのように活かされていますか。
櫻村 市政に携わっていますと、いろいろな場面で人間のエゴと言いますか、自己中心主義に出会いますが、そういう時に時々思い出します。「人になれ 奉仕せよ」には、キリスト教をもつて人たるの人格を磨き、キリストの愛の精神をもつて奉仕をすることという意味があると学びましたが、非常に含著のある言葉です。市政の方向を示す際には英断を伴いますが、3期の就任期間を通じて、この校訓が信念の核となっています。



日立市における文化の創造と発信の拠点として、子どもから高齢者まで誰でも利用できるシンボル施設、日立シビックセンターの前で。

「人になれ 奉仕せよ」を心に抱きつつ

—野庭幼稚園長就任にあたり— 松田和憲

だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、

あなたがたも人になさい(マタイ福音書七・二)

関東学院に奉職して11年目を迎えるが、幼稚園長になるなどという事は思いも寄らなかった。しかし命を受けた限りは、最善を尽くしたいと願っている。抱負は？と聞かれて、すぐに頭に思いつくのは「人になれ 奉仕せよ」とのスクールモットーである。今まで、この校訓に関する解釈

を色々と聞かされてきたが、最終的には、個々人がこの言葉の持つ意味を自分なりに受け止め、それを現実の歩みの中に活かしていければ良いのではないかと思っている。

園長就任にあたり、私なりの「人になれ 奉

仕せよ」理解について、主イエスの「黄金律(Golden Rule)」との関連において論じてみたい。冒頭の聖句は、欧米においては主イエスによる倫理的教えの最高峰と見做されているが、日本での受けはあまり芳しくなく、皮相的に理解されているくらいがある。逆に、類似した教えで「自分がされたら嫌なことは人にもするな」との教えの方向が、誰しも小さい時から聞いて育ち、「受身の文化」が基調にある日本人にとってはすんなり入ってくる教えであり、このルーツは古く中国の孔子に遡ると言われている。他方、イエスの教えは、極めて能動的であるために、日本人の中には違和感を感じる人も多く、これを処世訓、世渡り上手のコツと教えるものと同列に捉える傾向がある。この教えが「黄金律」として正しく理解されていない、所以がその辺にある。

ある時、学生に「人の人間として他者からして欲しいことは何か」と問うたら、「自分の存在を認めてほしい、ありのまま



の自分を受け入れ、愛して欲しいということではないか」との答えが返ってきた。私は、即座に「イエスは人間のその辺りに思いを向けたのだと

思う。誰しも、自分の存在を認め、受け入れ、理解して欲しいとの願望を抱いているならば、あなたの方から進んで、あの人の人の存在を認め、受け入れ、理解してやりなさい、と語っているのではないか」との言葉を返したのであった。

私は「人になれ 奉仕せよ」の校訓と、イエスの「黄金律」は深いところで結び付いているように思う。野庭幼稚園園長になつて、心掛けたことは、出来得る限り、園児一人ひとりに声をかけ、いまこの子が何を望み、何を求めているか、その「心の眼」を見て取ることが出来る園長になれればと切に願っている。しかし、それは恒久的な祈りの課題であり続けるということは言うまでもないことである。



Upon assuming the position of Director of Noba Kindergarten

I have served at Kanto Gakuin for 11 years and during this time have kept the school motto of "Be a man and serve the world" in my mind. Having been appointed as Director of Noba Kindergarten at this time, I will make my best efforts to serve the kindergarten.

I will focus my effort particularly on understanding what every child wants and needs by directly talking to them as much as possible. I sincerely hope to understand each child and will continue to keep each in my prayers.

Kazunori Matsuda



学院役員・教職員人事

①所属 ②専門分野・担当科目
③就任年月日 ④最終学歴

新任教員

①現職 ②就任年月日
③最終学歴

新任役員



天野 恵美子
あまの えみこ
①経済学部 経営学科 准教授
②マーケティング
③平成21年4月1日
④中央大学大学院商学研究所



朴(山本) 勝造(勝造)
ばく(やまもと) かつぞう
①経済学部 経済学科 講師
②国際経済学
③平成21年4月1日
④神戸大学大学院経済学研究所



橋本 健広
はしもと たけひろ
①経済学部 共通科目 講師
②CALL・英文学(イギリスロマン派)
③平成21年4月1日
④青山学院大学大学院文学研究科



長谷川 新
はせがわ しん
①専門職大学院 法務研究科 実務法
学専攻 教授
②商法
③平成21年4月1日
④立教大学大学院法学研究科



松田 和憲
まつだ かずのり
①理事
②平成21年4月1日
③同志社大学大学院神学研究所



西海知 隆
さいから たかし
①中学校高等学校 教諭
②数学科
③平成21年4月1日
④関東学院大学大学院工学研究科



石井 奈津希
いしい なつき
①中学校高等学校 教諭
②保健体育科
③平成21年4月1日
④日本体育大学体育学部



中山 徹
なかやま とおる
①人間環境学部 健康栄養学科 教授
②医学・糖尿病学
③平成21年4月1日
④東京医科歯科大学医学部



渡辺 竜介
わたなべ りゅうすけ
①経済学部 経営学科 准教授
②財務会計
③平成21年4月1日
④中央大学大学院商学研究所

学校法人 関東学院役員一覧

理事長 内藤 幸穂

学院長 森島 牧人

常務理事 星野 彰男
増田 日出雄
吉沢 寿朗

理事 松井 和則
富山 隆
落越 道彦
名取 俊夫
島田 正敏
松田 和憲
秋山 薊二
望月 正光
山下 幸司
平松 友康
井上 枝一郎
冲山 文敏
ドワイト P.デビットソン
澤野 芳久

監事 田野井 一雄
ロバート L.スティンソン
天野 昭一

平成21年8月1日現在



松本 浩二
まつもと こうじ
①中学校高等学校 教諭
②スクールカウンセラー・社会科
③平成21年4月1日
④明治学院大学大学院文学研究科



関戸 力
せきと ちから
①中学校高等学校 教諭
②保健体育科
③平成21年4月1日
④国際武道大学体育学部



佐藤 洋晴
さとう ひろはる
①中学校高等学校 教諭
②聖書科
③平成21年4月1日
④アンドヴァーニュートン神学校大学院



齋藤 美喜
さいとう みき
①中学校高等学校 教諭
②国語科
③平成21年4月1日
④都留文科大学文学部

学院役員・教職員人事

①所属 ②専門分野・担当科目
③就任年月日 ④最終学歴

新任任期制教員



小林 和彦
こばやし かずひこ
①工学部 情報ネット・メディア工学科
助教
②コンピュータ・グラフィックス
③平成21年4月1日
④東北芸術工科大学大学院芸術工学
研究科



山崎 洋一
やまざき よういち
①工学部 電気電子情報工学科 助教
②ロボット工学
③平成21年4月1日
④東京工業大学大学院総合理工学
研究科



田口 知世
たぐち ともよ
①六浦小学校 養護教諭
③平成21年4月1日
④杏林大学保健学部



安藤 修平
あんどう しゅうへい
①六浦小学校 教諭
③平成21年4月1日
④玉川大学教育学部



大高 健
おおたか けん
①六浦中学校・高等学校 教諭
②理科
③平成21年4月1日
④関東学院大学工学部

①所属 ②専門分野・担当科目
③就任年月日 ④最終学歴

新任契約講師



山本 雄也
やまもと ゆうや
①小学校
③平成21年4月1日
④横浜国立大学大学院教育学研究科



寺島 徹
てらしま とおる
①中学校高等学校
②技術科
③平成21年4月1日
④多摩美術大学美術学部



尾之上 さくら
おのうえ さくら
①工学部 物質生命科学科 助教
②細胞生物学
③平成21年4月1日
④北里大学衛生学部



鳥井 幸恵
とりい ゆきえ
①工学部 社会環境システム学科 助教
②地域計画学
③平成21年4月1日
④千葉大学大学院自然科学研究科



江波戸 和正
えばと かずまさ
①工学部 建築学科 助教
②鉄骨構造
③平成21年4月1日
④千葉大学大学院自然科学研究科

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴

新任嘱託助手



増田 泰之
ますだ ひろゆき
①工学部 建築学科 実験助手
②平成21年4月1日
③浅野工学専門学校建築工学科



佐藤 寛修
さとう ひろのぶ
①工学部 情報ネット・メディア工学科
技師補
②平成21年4月1日
③東京電機大学大学院工学研究科



遠藤 隆久
えんどう たかひさ
①工学部 電気電子情報工学科
技師補
②平成21年4月1日
③関東学院大学大学院工学研究科



伊藤 美紀
いとう みり
①野庭幼稚園
③平成21年4月1日
④関東学院女子短期大学幼児教育科



中西 やすか
なかにし やすか
①六浦幼稚園
③平成21年4月1日
④関東学院女子短期大学幼児教育科

学院役員・教職員人事

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴

新任職員



荒井 修二
あらい しゅうじ
①情報科学センター運用課 書記
②平成21年4月1日
③学校法人岩崎学園情報科学専門学校



佐々木 祐太
ささき ゆうた
①入試課 書記
②平成21年4月1日
③関東学院大学法学部



吉田 和弘
よしだ かずひろ
①教務課 書記
②平成21年4月1日
③明治大学高学部



松下 真実
まつした まみ
①教務課 書記
②平成21年4月1日
③立教大学文学部



福本 佑美
ふくもと ゆみ
①工学部 社会環境システム学科
技師補
②平成21年4月1日
③関東学院大学大学院工学研究科

①所属 ②就任年月日

新任職員 (カウンセリングセンター)

小林 弥生
こばやし やよい
①カウンセリングセンター事務室 書記
②平成21年4月1日

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴

新任嘱託職員



藤平 由美子
ふじひら ゆみこ
①図書館運営課 本館
②平成21年4月1日
③慶應義塾大学大学院理工学研究科



遠藤 明子
えんどう あきこ
①学生生活課 医務室
②平成21年4月1日
③神奈川県立看護教育大学校保健学科



古谷 孝志
ふるや たかし
①情報科学センター運用課 書記
②平成21年4月1日
③学校法人岩崎学園情報科学専門学校

①所属 ②就任年月日

新任契約職員 (カウンセリングセンター)

中島 千加子
なかじま ちかこ
①カウンセリングセンター小田原キャンパス事務室
②平成21年5月1日

綿貫 春利
わたぬき はるとし
①カウンセリングセンター金沢八景(室の木)キャンパス事務室
②平成21年4月1日

Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

- 1 New Member of the Board of Trustees
- 15 New Faculty Members
- 5 New Faculty Members Employed Temporarily
- 4 New Faculty Members Employed Contractually
- 4 New Assistant Faculty Members Employed Temporarily
- 5 New Office Clerks
- 2 New Contract Office Clerks
- 1 New Office Clerk (Counseling Center)
- 2 New Office Clerks Employed Temporarily (Counseling Center)
- 1 Retired Member of the Board of Trustees

①所属 ②退任年月日

退任役員

帆刈 猛
ほがり たけし
①理事
②平成21年3月31日

西野 芳夫
にし の よしお
①常務理事
②平成21年7月25日

関東学院 各校 NEWS

大学

2009年度報告

総合研究推進機構の 開設記念式典挙行

関東学院大学 総合研究推進機構開設記念式典の開催について本年4月1日付で本学における研究を全学的に推進し、研究の総合的向上及び研究を通じて社会的使命を達成することを目的として設立された「総合研究推進機構」の開設記念式典が大学金沢八景キャンパスF302教室において6



月27日(土)午後4時40分から行われました。式典は学内外から約250名のご来賓等をお迎えして挙行されました。式典では、松井和則学長・総合研究推進機構長の式辞に続き、内藤幸穂理事長、宮崎道雄研究担当副学長の挨拶が行われました。

●ご来賓よりご祝辞を賜りました。

- ・ 神奈川県政策部総合政策課科学技術・大学連携室長 船本 和則様
- ・ 横浜市経済観光局創業・経営支援担当政策専門部長 金子 延康様
- ・ 横浜市金沢区長 石井 洋一様
- ・ 横浜金沢産業連絡協議会専務理事 寺島 俊介様
- ・ 財団法人神奈川科学技術アカデミー 理事長 藤嶋 昭様

最後に、中島正夫総合研究推進機構運営部長(工学部教授)から総合研究推

進機構の紹介が行われ、「学内の付置研究所、大学院などの研究機構と連携して、産官学連携共同研究、国際共同研究プロジェクト研究、各種公的競争的資金のほか、研究成果の社会還元などを積極的に推進したい。」との抱負が表明されました。

記念式典に先立ち、記念講演会が行われ、横浜国立大学名誉教授(前学長)の飯田嘉宏先生(関東学院高等学校御出身)が、「研究改革における研究の変革(横浜国立大学を例として)」と題して講演されました。横浜国立大学学長として、大学改革における研究のあり方、研究の変革をどのように進められたかを約50分間に亘り講演され、大学が21世紀社会の中心となるために、大学改革、研究改革は必須であること、社会に繋がる実践的な研究が求められていること、そして、横浜国大とその研究について理念、目標、研究戦略、制度改革、実績が紹介されました。



式典に引き続きおこなわれた祝賀会では、ハイテク・リサーチ・センター整備事業研究代表者・本間英夫工学部教授から開会の挨拶が行われました。
 本学の同窓会である燦葉会の藤野継基副会長、名古屋大学大学院高井治教授から祝辞を賜りました。関東化成工業株式会社福原國晃代表取締役社長の乾杯の御発声をいただき、和やかに歓談が行われました。
 また祝賀会閉会后、有志によるハイテク・リサーチ・センター(6号館)の見学が行われました。



本学出版会が 大学出版部協会に入会

本学出版会は、2001年7月の創立当初から目標としてきた「一般社団法人大学出版部協会」への入会を、本年5月末に実現しました。

当協会は、「日本における大学出版部の健全な発展をはかり、もつて学術文化の向上と社会の発展に寄与することを目的として」設立された団体であり、現在、東京大学出版会をはじめ、全国32大学の出版部が加盟しています。

当協会に入会するためには、「実態としての出版部（人組織）が存在し、出版行為主体として継続的な出版活動を行っている出版部であること」という一定の入会資格が求められています。

本学出版会は、運営委員会並びに編集委員会組織の下、これまでに30点弱の学術書・教科書を刊行してきました。出版分野も人文・社会・自然科学と多岐に亘っています。

これらの実績が高く評価され、当協会への新規加盟が認められるところとなりました。

2009年9月30日現在

■ 関東学院大学出版会 刊行物一覧

書名	著者名	発行年月
アダム・スミスの経済思想	星野彰男(経済学部)著	2002.3.20
Clad in Colours	島村宣男(文学部)著	2002.11.30
人間と倫理	濱田・帆莉・杉田(人間環境学部)共著	2003.4.10
不完備契約理論の応用研究	中泉拓也(経済学部)著	2004.3.30
商品進化と技術	石崎悦史(経済学部)・橋本仁蔵共著	2004.3.30
ワークブック よくわかるキリスト教入門I	森島・村椿・帆莉・松田共著	2004.4.1
気取りへの視線	山崎稔恵(人間環境学部)著	2004.11.10
心にのこる最高の先生	上林喜久子(経済学部)編訳著	2004.11.20
主の御手に守られて	ジュディス・D・ディロフ著	2005.2.28
グローバリゼーションと地域社会変動	岩城完之(文学部)著	2005.2.28
ワークブック よくわかるキリスト教入門II	森島・村椿・帆莉・松田共著	2005.4.1
ウィーン警察官教育の法と命令	今村哲也(法学部)著	2005.6.10
イギリス人の語る心にのこる最高の先生	上林喜久子(経済学部)編訳	2005.6.30
知る権利と図書館	中村克明(文学部)著	2005.10.28
近・現代日本哲学思想史	濱田恂子(人間環境学部)著	2006.2.24
長谷川逸子・デザインスタジオ2004	長谷川逸子(工学部)編著	2006.2.28
支え合い、育ち合いの子育て支援	大豆生田啓友(人間環境学部)	2006.3.30
情報セキュリティ・マネジメントの導入と展開	税所哲郎(経済学部)著	2006.3.30
回路理論	宮崎・銭・養・島田(工学部)共著	2006.4.20
新しい英語史	島村宣男(文学部)著	2006.5.11
ユーザーのための金属基複合材料	山田銃一(工学部)	2006.9.20
バプテストの歴史的貢献	バプテスト研究プロジェクト編	2007.3.30
建築と土木の耐震設計 基礎編	精木紀男・規矩大義(工学部)編著	2007.10.1
創造する<平和>	糠塚康江・浅野俊哉(法学部)編著	2008.3.19
複式簿記のしくみ	大野功一・和田聡(経済学部)	2008.4.11
英語のしくみとこころ	文学部英語英米文学科編	2009.3.30
実験音声学のための音声分析	平坂文男(文学部)著	2009.3.30
ジェイ・H・モーガン	水沼淑子(人間環境学部)	2009.6.10
芸術と服飾 あやなす景色	山崎稔恵(人間環境学部)著	2009.9.30

[Kanto Gakuin University]

Opening ceremony for Institute of Research Advancement and Management Organization

On June 27, Kanto Gakuin held an opening ceremony for the newly founded "Institute of Research Advancement and Management Organization" at Foresight 21 on the Kanazawa Hakkei Campus. The ceremony started at 4:40 pm and 250 guests from both on and off the campus were invited. The Institute of Research Advancement and Management Organization was formally founded on April 1 of this year, to further advance research and to carry out Kanto Gakuin's social mission through the comprehensive development of study and research.

The ceremony started with opening remarks by President Kazunori Matsui, who also serves as Chief Director of the Institute of Research Advancement and Management Organization. Dr. Sachiko Naito, Managing Director of Kanto Gakuin and Michio Miyazaki, Vice President for Research made speeches as well.

The event followed the memorial lecture presentation held earlier on that day, in which the former president of Yokohama National University and alumnus of Kanto Gakuin Senior High School, Professor Yoshihiro Iida —gave a lecture titled: "Research Changes in Research Reform (Cases from Yokohama National Univ.)". Prof. Iida talked about the role of study in university reform, and what he did to promote reform during his term. He stressed that comprehensive reform of the university system and study is absolutely necessary for universities to remain a part of the mainstream society in the 21st century. Furthermore, he stressed that universities are expected to focus on practical studies that are directly connected to society. He also introduced the academic philosophy, studies, objectives, research strategy, systemic reform and performances of the University.

Univ. Press now joins the AJUP

At the end of May this year, Kanto Gakuin University Press formally joined the Association of Japanese University Presses (AJUP), which has been a long-standing goal of Kanto Gakuin University since the association's establishment in July 2001.

AJUP was founded "to promote scholarship and to contribute to social advancement by publishing scholarly research" and 32 university presses including the University of Tokyo Press are presently members.

Kanto Gakuin University Press, consisting of a managing committee and an editorial committee, has published almost 30 titles of academic books and textbooks. The activities of Kanto Gakuin University Press were evaluated highly and thus allowed membership to the association.

中学校高等学校

中学教頭
河合 輝一郎

新型インフルエンザの影響で 研修旅行のコース変更 —それでも神様は豊かな恵みを与え給う—

私ども中高は、毎年6月の第一週を校外行事週間としていますが、今年は世界的な新型インフルエンザの影響で、中2・中3高2の研修旅行のコースを変更せざるを得なくなりました。それぞれの学年が事前準備をしていましたが、異例の事態に戸惑いを覚えつつも、わずか2週間の準備期間の中で気持ちを切り替え、存分に楽しんできたようです。

中学2年生は地元の新報にも紹介され、その記事を見た卒業生からも熱いメッセージが届きました。「思い悩むな。ただ求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる」という主イエスの言葉ではありませんが、災い転じて福となったようです。以下、生徒の感想を紹介させていただきます。

中学2年1組

関口 梓織

初めて降り立った盛岡の地は寒くありませんでした。しかし、二日目に行った八幡平は気温も低くたくさん雪があり、東北に来たことを実感しました。私の住んでいる所では、雪が積もることはな

かなかありません。こんな時期にみんなで雪合戦ができてとても楽しかったです。

宮沢賢治記念館の見学も充実していました。賢治の年表には「大凶作」の文字が目立ちます。そのために、賢治は農業改革で農民を救おうと力を注いでいました。そして、妹トシを心から慕っていたことや自然を尊重する世界をめざしていたことを知りました。そこには宗教の枠を超え、私たちが学んでいる聖書の教えに繋がるものがありました。



もし、私が1945年に被爆をしていたら

長崎Aコース 中学3年4組

又吉陽二郎

たった一秒もかからなかったという。その一秒で周りになにもなくなつたという。もちろん人も、人の心も。

なんの前触れもなく、本当に何もなまんな人は消えていったという。

もし、僕がその場に、戦争の場に、居合わせていたら生きることになったのだろうか。

盗んだり、逃げたり、あさつたり、時には殺したり。なにがなんでも生きようとしたら。

それでも、僕は分かってしまうのだろう。あれには、あの発には勝てないことを。死者の魂が空に逃げていくように、きれいなきのこ雲を残すあの大量破壊兵器には。

たった一秒。そんな短い時間、普段何気なく、気にも留めずに過ごした時間に、すべてが分かってしまう。生きるか、死ぬか分かってしまう。それってなんか悲しい。いまままで積み上げてきた、思い出。財産。家庭。愛情。

そんなものが、すべて一瞬で消えてしまう。その人々の命とともに。

1945年。

あの悲しみは、衝撃は、日本中を襲った。その悲しみは時がたつことに癒えていった。

この痛みはきつと、風化してしまふと思つた。それがもつと悲しかった。

[Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools]

Change to the study tour routes

Each year the first week of June is set as the study tour week for the junior and senior high schools. Due to the worldwide spread of the H1N1 Influenza this year, the travels for the second and third year students of the junior high school and the second year students of the senior high school had to be changed. Individual students had conducted research in preparation for the study tour. A local newspaper published an article about the second year students of the junior high school on their tour, and a former student of Kanto Gakuin, who read the article, sent a warm message to them.



だから、人々は石碑を造つた。立ち直つても忘れぬように。あの惨事を忘れぬように。この絶望を忘れぬように。未来に伝わるように。

僕は、そこに生まれなかった。それだけの幸運を持っていた。ただ、だからといってそこから目をそらしてはいけないと思う。石碑にこめられたメッセージを、

戦争で起きた出来事を、これからもつと真剣に見つめなおすべきだと思つた。

2年生自然教室

5月12日(火)から15日(金)まで、今年も軽井沢にて3泊4日の自然教室を実施しました。

初日朝8時、大学キャンパスに集合した生徒たちは元気にバスに乗り込み、軽井沢へ出発しました。今年度の初日は、軽井沢野鳥の森へ立ち寄り、ネイチャールーティングを行います。野鳥の森に到着してから昼食を摂り、15人程度の班に分かれ、NPO法人ピッコオから班に一人ずつ専門のガイドがつき、詳しく説明を受けながら、双眼鏡とガイドブックを片手に森の中を探検しました。ツキノワグマの生息地であるこの森は、熊がつけた爪の跡が木に残っているなど、ガイドさんが説明すると生徒たちは驚きの声を上げていました。水たまりのような小さな池にはおたまじゃくしが泳いでいます。多くは他の動物に食べられてしまい、ほんの数%しか大人のカエルにならないという話を聞きました。自然界で生きる厳しさ、しかし食べられてしまったおたまじゃくしは他の動物の命をつないでいるということを知り、色々と考え

る機会になりました。班の中には、途中でカモシカに出会えた幸運なグループもあり、その様子を興奮気味に話していました。

ネイチャ

ルーティングの後、またバスに分乗し、宿泊先である「恵みシャレー軽井沢」へ向かいます。荷物を運び出し、チャペルで開会礼拝を守り、自然教室がいよいよ始まりました。

2日目好天、予定通りオリエンテーリングを行いました。班ごとに協力し、地図を頼りに問題を解きながら、軽井沢の自然の中を散策しました。地図をよく見ずに全く違うコースを歩き、先頭を行く教員より早く到着してしまった班もいくつかありました。ゴールは緑の山々を見下ろす絶景の見晴台。長野県と群馬県の県境が走る地点です。配られたお弁当を食べ、班でまとまって山を



下り、旧軽井沢市街地を通り宿舎に戻りました。疲れからか途中でバラバラになつてしまふ班が続出し、人と協力して行うことの難しさを体験することになったオリエンテーリングでした。

3日目も良い天気恵まれ、まず近くの雲場池をクラスで二周巡りました。その後、宿舎内に例年用意してくださる竈で、飯盒炊爨です。飯盒でごはんを炊き、なべでカレーを作ります。煙にまかれながら一生懸命火を起こしたり、慣れない手つきで材料を切ったりしながら、協力してカレーライスを作り、皆を驚かせました。自分たちで作ったカレーの味は格別だったことと思います。軽井沢の冷たい水での後片付けはかなりの辛いものがありました。生徒には良い経験だったと思います。最終の片付けをしてくれた整備班は本当によくやってくれました。

その日の晩は「親睦の時」と題して、親睦班が準備を行い、学年全体でゲームをして楽しい一時を過ごしました。クラス対抗でボールを早く送る、ボールについて届いた問題に早く正確に答えるというゲームで、

生徒たちは熱中してやっていました。迷答、珍答に皆で大笑い。教室の授業では見ることのできない顔をたくさん見せてくれました。

最終日は部屋の片付けをした後、開会礼拝を守り、4日間のプログラムは終了しました。この自然教室を通して得たたくさんの思い出を胸に、全員無事学校へ帰着しました。

自然教室の間毎晩、生徒たちは一日の記録をまとめます。その日の出来事を振り返り、印象に残ったこと、反省点を各自が記入します。熱心に書いている記録が多く、昨年から一年の成長と共に頼もしさを感じました。また、すべてのプログラムにおいて自分たちで時計を見ながら概ね時間通りに行動できたこと、怪我や具合を悪くしても軽いもので終わり、病院で受診する程の生徒が一人もいなかったことは、大変素晴らしいことでした。

学年の仲間と寝食を共にし、親睦を深め、協力しあい、自然に親しむ体験をすることができました。実に豊かな自然教室の4日間が、今後の生徒一人ひとりの成長の糧になることを祈っています。



[Kanto Gakuin Mitsuura Junior and Senior High Schools]

Nature Class for second-year students

The four-day nature class was held again this year for second-year students of the junior high school in Karuizawa. On the first day, students hiked through the Karuizawa Yacho-no-mori (Wild Bird Forest) led by a guide from Picchio, a local NPO tour company. On the second day, the students enjoyed orienteering from the town of Karuizawa up to the observation platform. On the third day, after hiking a trail around Kumoba Pond, the students cooked and enjoyed an outdoor lunch of curry and rice. With perfect weather throughout the four days, it was a wonderful experience for the students.

小学校

教諭 辻 望

花の日の礼拝

6月12日(金)に、花の日の礼拝をしました。礼拝堂の壇上に13個のプリザーブドフラワーが並びました。礼拝では2つの花について話をしました。1つは、壇上の花についてです。本物の花を加工して贈り物として飾りつけをします。もう一人の喜ぶ姿を思い、心を込めて花を作ります。また、キリスト教委員の児童が感謝の気持ちを表した手紙とともに、日頃お世話になつている方に差し上げます。

もう1つは星野富弘さんが書いた花をスクリーンに映し出して紹介しました。身体が動かなくなつてから、聖書に触れ、傷ついた心に御言葉が入り神様の愛があふれ出る心になりました。御言葉を心の中にたくさん受け入れることでたくさんの人に愛を与えることができます。神

[Kanto Gakuin Primary School]

Flower Day Service

A Flower Day service was held on Friday June 12. The principal talked about the flowers on the podium and a picture of flowers painted by Tomihiro Hoshino was projected on the screen on the stage. Hoshino started reading the Bible after becoming a paraplegic, and the Bible passages helped bring him back from despair. His heart is now filled with God's love. At the end of the service, participants sang the hymn "Just a Dainty Basket."



様の力がはたらくからです。今日、お花を届けます。もらった人の心が明るくなるように、神様の力がはたらくてくださいます。讃美歌「小さなかご」を歌い礼拝を終えました。

六浦小学校

六浦小学校校長 島田 正敏

タイの子どもたちが来日



タイの古都チェンマイから車で約6時間走った山岳地に少数民族のKaren族が住むチパレ地方があります。約40の村が点在し、Karen語を話す人々が高床式住居で暮らしています。幼稚園、小中学校は、中心部のティワタ村にしかありません。ティワタ村以外の集落に住む子どもたちは、自宅から学校まで歩くと、近い子で4時間、遠い子は2日かかります。そのため数百人の子ども達が学校に通えない状況でした。1992年、牧師であるダウ先生が、ティワタ村に寮を建てました。寮生

は28名からのスタートでした。しかし現金収入の少ないこの地方での運営は困難な状況になりました。チェンマイ在住の日本バプテスト同盟の大里英二宣教師(元関東学院六浦中高教諭)から連絡があり、1994年から本校の支援活動が開始されました。現在は、158名の子どもたちが寮から学校に通っています。

支援活動を始めて15年が過ぎた今年、創立125周年事業として寮に車を寄贈する寮の子どもたちを日本に招待する企画を立てました。8月の「第8回タイ訪問団」が現地に行くときに車をプレゼントします。また寮の子どもたち(子ども8名、教師3名)は、125周年記念式典に列席し、ホームステイをする予定です。



[Kanto Gakuin Mutsuura Primary School]

Visit by Thai children

Our school has been providing support for a dormitory for children of hill tribes in Thailand since 1994. As one of the 125th Anniversary projects, we are planning to donate a car to the dormitory and invite children of the dormitory to Japan.

六浦幼稚園

主任 鈴木 直江

創立60周年記念バザーを迎えて

6月27日(土)天候にも恵まれ、創立60周年記念バザーを開催することができました。バザーの主旨は、保護者同士の親睦・2・4年生の同窓会・新園舎建設のための支援です。4月からバザー委員を中心に幼稚園と保護者が協力して歩みを進めてきました。当日は、献品コーナー・子どものゲームコーナー・食べ物コーナー・ステージコーナーなどが幼稚園と小学校の体育館に設置され、大勢のお客様を迎え入れたのでした。子どもコーナーでは、



子どもコーナーでは、



年長組の子ども達も自分たちで作ったクッキーをチケットで販売する本物のお店屋さんを体験しました。自分た

ちで準備(クッキー作り・ラッピングシール作りなど)から行い、どんなお客さんが買ってくれるのか楽しみにしながら当日を迎えました。子ども達の始まる前の緊張した表情が、お客さんとのやり取りの中で喜びの表情に変わり終わりの頃には満足した表情へと変わっていきました。ステージコーナーでは、保護者の方たちのバンドや卒業生の演奏が行われました。保護者バンドでは、子ども達や多くの卒業生・保護者が参加して演奏者とフロアが二つとなり神様を賛美しました。その歌声はとても素晴らしいものでした。この日は、卒業生を含む幼稚園に関わる多くの方々が集まり、笑顔あふれる和やかな交わりの時として過ごすことができ、大変感謝でした。



[Kanto Gakuin Mutsuura Kindergarten]

Sixtieth Anniversary Bazaar

On Saturday June 27, the 60th Anniversary Bazaar was held with the aim of promoting closer relationships among parents as well as conducting a fundraiser for the alumni association and the new kindergarten building. Various booths were set up on the day, including a shop selling donated goods, game booths for children, food and beverage booths, and a special stage. The bazaar attracted many people, including alumni. The bazaar was very successful as noted by the friendly atmosphere and many smiling faces.

野庭幼稚園

主事 小高 千恵

保育参加とプレイデー



園生活にもなじんできた5月に親子遠足がありました。そして6月には保育参加を各学年行っています。年少児・年中児は数日に分かれて、保護者

園生活にもなじんできた5月に親子遠足がありました。そして6月には保育参加を各学年行っています。年少児・年中児は数日に分かれて、保護者

ぶ姿を見て、その創意工夫に知的好奇心の輝きを感じ取っておられます。年長児の保育参加は、お泊り会に就いてくTシャツ作り、ミニ運動会を行ないました。あえて我が子ではないチームを組んでのゲームでは、抱き合って喜び合う姿に「育ちあう人間関係」が深まっているのが分かります。子育てをしながら、同時に親育ちの今、幼稚園は両者にとってかけがえのない場となっていることが嬉し



プレイデーでは3つのワークショップを親子で体験しました。親子ふれあい遊びでは、「早速家に帰って、教わったじゃれ遊びをやりました」。墨と筆では、「絵文字」ひらがな以外にも複数の外国語でわらうの文字を知ること、国際感覚の豊かさを感じました。スイーツデコパージュでは、「不器用ながらも自分でやり通すことに成長を感じました」。等感想が寄せられています。

[Kanto Gakuin Noba Kindergarten]

Parents' Participation Day and Play Day

Parents of the three- and four-year old classes joined in the daily activities at the kindergarten as "big friends." They were divided into groups and each was assigned a different day to experience kindergarten activities from the viewpoint of the children. Parents of the five-year old class helped the children make T-shirts for their overnight program, and they joined in a "mini-sports event." On the Play Day, parents and children experienced together the following three workshops: "Play Together Program for Children and Parents," "Ink and Brush" and "Sweets Decoupage."

生涯メールサービス提供開始

情報科学センター 所長 村上 裕

関東学院大学では2009年度より生涯メールサービス「KGU生涯メールサービス」(卒業生へのメールアドレス付与ならびに大学からの各種情報提供)を開始します。まずは2008年度(2009年3月)の卒業生のうち希望者に生涯メールアドレスを提供しました。これ以前の卒業生に対しては卒業生データベースの整備が完了した後に、メールアドレスの付与を開始できるように準備を進めています。卒業生の皆さんにはさんよう通信を通じてこの秋にご案内を差し上げる予定でいます。

本学で導入する生涯メールは単なる転送メールではなく、新たにメールアドレスを発行して、在校生が利用しているものと同様の機能のメールサービスを提供するものです。インターネットに接続でき、ブラウザが利

用できる環境であれば、どこでも同一の環境でメール送受信が可能ですし、携帯電話にも対応しています。(機能については大学ホームページをご覧ください。)

生涯メールは卒業生の皆さんと大学・在校生を結ぶコミュニケーションツールとして導入を検討してきたもので、2007年度に採択された学生支援GP(「校訓に基づく入学前～卒業後までの総合支援」)の一つのプログラム(「生涯メールアドレスの利用による支援」)を契機に実現しました。このプログラムは卒業生の皆さんのキャリアアップに役立つ情報を提供すると同時に、卒業生の社会人経験を在校生の支援に活用することを目的としていますので、より多くの卒業生の方が生涯メールを利用されることを期待しています。

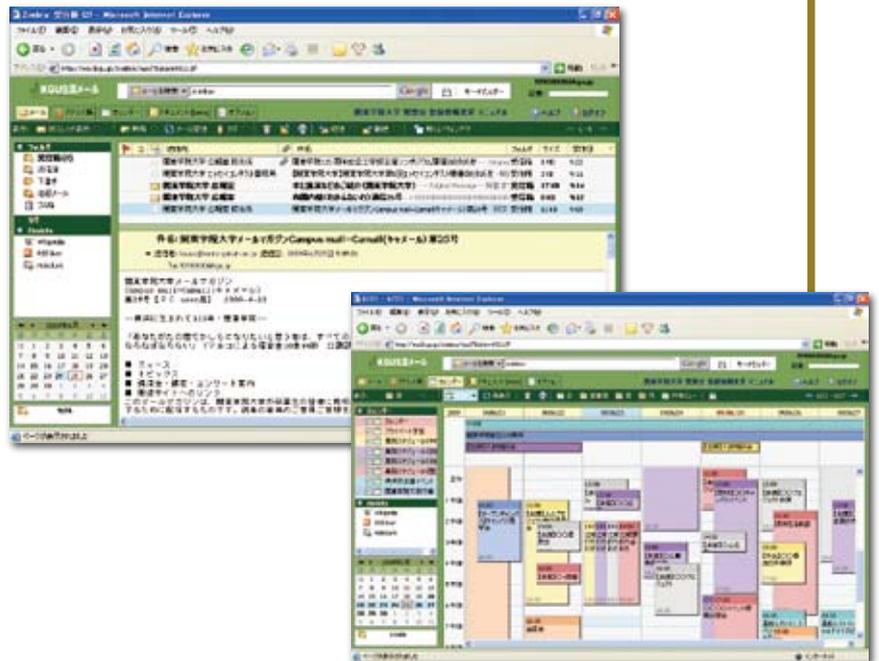
Lifetime Email Service

A lifetime email service with the aim of connecting the university and its alumni started in the academic year of 2009. Those who graduated in March 2009 and wished to receive the service have already been provided with their lifetime email account. For other alumni who graduated before then, this lifelong email service will be available this fall.

KGU生涯メールサービスは、米国Yahoo!メールでも採用されているZimbra社のZimbra Collaboration Suiteによるメッセージング機能とコラボレーション機能を関東学院大学卒業生に向けて無料で提供するサービスです。専用のメールアドレス(kgu.jp)を用いたWEBメールの他、アドレス帳、共有カレンダー、オンラインドキュメント制作などの豊富な機能をWEBブラウザのみで利用可能となります。大学からの様々なお知らせの他、卒業生と在大学生や、卒業生同士の新しい形のコミュニケーションの創出に是非ご活用ください。

なお、KGU生涯メールへのお申込みは、ホームページ経由で行うことが出来ますので、詳しくは下記の関東学院大学公式ホームページ内「卒業生の方」ページをご覧ください。

■ 関東学院大学公式ホームページ
<http://univ.kanto-gakuin.ac.jp>



生涯学習センター講座紹介

Introduction of Open classes at the Lifetime Learning Center

In the 2009 fall semester, the Lifetime Learning Center will offer 42 open classes, the largest number since its opening, at the Kanazawa Hakkei, Kanazawa Bunko and Odawara campuses, as well as at the Kannai Media Center. There will be new classes as well as those that were popular in the spring and past semesters. In regard to language classes, the Center will continue to offer classes for intermediate and advanced learners in addition to those for beginners. There will also be classes designed in cooperation with local the community and businesses. The Center hopes that the participants will enjoy these diversified and unique classes.

生涯学習センターの2009年の秋学期の公開講座を紹介します。金沢八景、文庫、小田原の各キャンパス、KGU 関内メディアセンターを会場として、これまでで最も多い42の講座を予定しています。

新企画としては、『着物文化と着実枝』『映画を読む～「ニューシネマ・パラダイス」を分析する』『詩を読む・詩を書く』『短歌創作前のレッスン』『横浜洋館物語——関内を歩く』『格差社会をどう生きるか』『シャーロック・ホームズの魅力の世界』等があります。

春学期に開講して人気を博した『源氏物語の世界』、また学院創立125周年記念事業として僚業会協賛の『港都横浜の文化——市民と学ぶ横浜学』、建学の精神を学ぶ『キリスト教とは何か』等の講座にもご注目ください。語学の講座も初級コースだけでなく、中上級コースも引き続き開講します。『日本の文化——美しき能の世界』は3回目、『ギリシア古典を読む』は2回目で、継続して学びを深めていける講座も多くあります。地域や企業との協力によるユニークな企画もあります。ぜひガイドブックをご覧ください。本学ならではの生涯学習のコースをお楽しみください。



関東学院創立125周年記念講座『キリスト教とは何か—関東学院大学の建学の精神を学ぶ—』



金沢歴史の道歩く「地元「金沢」の歴史を知らう—街歩きを楽しく—」

編集後記

本年10月6日に学院は、創立125周年を迎えます。今号では、創立125周年特集号として記事を構成しました。この記念すべき本年

は、先人たちの尊い働きをわたしたちの歴史の礎として残しながら、さらに次の150年へ向けた大きな節目の年となります。そして、これまで学院に貢献された方々、在校生、同窓生、教職員並びにこの他の学院関係者の皆様とともに、学院創立記念事業を通じて、新たな歴史の創造に向けて確実な一歩を踏み出すこととなることを願っています。

過日、大学卒業生に取材を行なっていました。当時の学生と教職員との関係が今よりも密であったと伺い、近年はその関係がかなり希釈されてきているようにも感じます。大切なものは、原点に振り返り人と人とのつながりであるとの思いを新たにしました。

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。

宛先 関東学院 法人事務局広報課 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
TEL: 045-786-7006 E-mail: kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

■秋学期開講講座一覧

実施場所	講座名	
金沢八景キャンパス	育児は育自!我が子から大事な贈り物を受け取って、自分も子供も輝こう!	
	シャーロック・ホームズ魅力の世界IV	
	韓国語初級	
	韓国語中級	
	フランス語中級	
	フランス語上級	
	中国語初級	
	日本の文化—伝統工芸・鎌倉彫(初級編)	
	中国語中級	
	日本の文化—美しき能の世界 その三 暮らしの中の色彩講座	
	実践ファイナンシャルプランニング講座	
	陶芸入門	
	ラッピングコーディネーター講座	
やさしいパソコン講座		
金沢文庫キャンパス	着物文化と着実枝	
	地元「金沢」の歴史を知らう、その2	
	港都横浜の文化	
	コンサートシリーズ・第13回	
	キリスト教とは何かII	
	ラッピングコーディネーター講座(応用)	
	保育実践講座	
	源氏物語の世界 その二	
	韓国語上級	
	負担増時代・家計をどう守る	
	第13回英語公開講座	
	小田原キャンパス	裁判員になるかもしれないあなたと考える 犯罪捜査と裁判
		哲学初歩・10 カントと現代(2)
KGU関内メディアセンター	ホスピタリティ実践講座	
	詩を読む・詩を書く	
	韓国語初級	
	短歌創作前のレッスン	
	Excel&PowerPoint活用術	
	映画を読む—「ニューシネマ・パラダイス」を分析する	
	やさしいパソコン講座	
	ラッピングコーディネーター講座	
	平和について語る 6	
	横浜洋館物語	
格差社会をどう生きるか		
ギリシア古典を読む 2		
ラッピングコーディネーター講座(応用)		
ライブ(一斉授業)と EラーニングによるTOEIC講座		

小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
3(土) 秋の屋外なかよし会 6(火) 創立記念祈祷会 7(水) 学力テスト 9(金) 創立記念礼拝 10(土) 関東学院創立125周年記念式典 20(火) 一般入試 22(木) 後期葡萄の木子供会発表会 24(土) 漢字検定 28(水) 6年学年懇談会 31(土) オリブ祭	1(木) 後期始業式 2(金) 1・2年懇談会 6(火) 5・6年懇談会 創立記念礼拝 7(水) 3・4年懇談会 17(土) 一般入試A日面接試験 20(火) 一般入試A日適正検査 24(土) 一般入試B日面接・適正検査	9/29(火)～29(木) 保育参加 6(火) 学院創立記念日 7(水) 移動動物園 10(土) 学院創立記念式典 14(水) 誕生会 15(木) 入園要項配布 17(土) 入園説明会 23(金) 交通安全指導 24(土) スピーチコンテスト(年長組参加) 30(金) 親子劇場	3(土) 運動会 5(月) 移動動物園 6(火) 創立記念礼拝(125th) 9(金) 運動会代休 9(金) 関東学院125周年記念式典 15(木) 願書配布/PM入園説明会 16(金) 秋の遠足 19(月) わかば会講演会 27(火) バイブルクラス⑤/保育参加(長) 28(水) 誕生会
4(水)～13(金) グループ・個人面談 5(木) 3年社会科見学 10(火) 5年社会科見学 12(木) らいふ見学 17(火) 4年出前授業 19(木) 収穫感謝礼拝 20(金) 漢字・計算テスト 27(金) 授業参観II(1～5年) 28(土) 佐々木和之さん講演会・ルワンダ展	3(火) バザー 4(水) バザー振替休日 5(木) マラソン大会検診 10(火) 4年生社会科見学 19(木) 収穫感謝礼拝 20(金) 授業参観 25(水) マラソン大会	1(木) 入園願書受付 5(木) 秋の遠足 9(月) クラス懇談年少組 11(水) 誕生会 13(金) クラス懇談年中組 16(月) 収穫感謝礼拝 20(金) クラス懇談会年長組 20(金) 避難訓練 21(土) 創立60周年記念式 24(火) アドベント	1(日) 新入児受付(予定) 2(月) 新入児受付業務の為休園 4(水) 野庭フェスタ(長) 5(木) 保育参加(少・中)① 6(金) 保育参加(少・中)② 9(月) 保育参加(少・中)③ 10(火) わかば会 11(水) 座談会(10・11月) 12(木) 保育参加(中)④ 13(金) 保育参加(少)④(中)⑤ 14(土) 125周年記念オペレッタ 19(木) 収穫感謝礼拝 20(金) 収穫感謝訪問/懇談会(長) 24(火) バイブルクラス⑥ 25(水) 誕生会 26(木) ひとみ座②/懇談会(中) 27(金) 懇談会(少) 29(日) アドベント①
4(金) アドベント礼拝I 7(月) 方面別反省会 11(金) アドベント礼拝II 18(金) アドベント礼拝III 22(火) 学院クリスマスコンサート クリスマス礼拝・終業式 オリブの会全体会 24(木) 冬期休業開始 24(木)～25(金) 冬期講習 28(月) 冬期講習	18(金) 学院クリスマス 22(火) クリスマス礼拝・クラス祝会 23(水) 冬季休業開始	2(水) 誕生会 9(水) おりぶ会クリスマス 11(金) 年長組集合写真 16(水) クリスマス礼拝(年少中) 17(木) クリスマス礼拝(年長) 18(金) 学院クリスマスコンサート	2(水) 誕生会 4(金) ガウン写真(長) 6(日) アドベント② 7(月) 保護者歌の練習 8(火) わかば会クリスマス礼拝 12(土) 2・3年生同窓会 13(日) アドベント③ 17(木) クリスマス礼拝・終業式 18(金) 学院クリスマスコンサート(長) 20(日) クリスマス 21(月)～28(月) 冬期ロバの子クラブ
8(金) 始業式 12(火) 方面別下校 12(火)～2/1(月) 6年生特別時間割 13(水) 3・4年学年懇談会 15(金) 計算テスト 新1年一日入学I 18(月)～30(土) 書き初め展 19(火) 5年学年懇談会 25(月) 2年学年懇談会 26(火) 1年学年懇談会 30(土) 中学年学習発表会	8(金) 授業開始・書き始め 13(水)～15(金) スキー教室 23(土) 授業参観・アブラハムの会 29(金) 避難訓練	8(金) 3学期開始 12(火) 身体測定年長組 13(水) 誕生会 14(木) 身体測定年中組 15(金) 身体測定年少組 19(火) お餅つき 20(水) 一日入園 26(火) 子育て講演会 29(金) 消防訓練	4(月)～8(金) 冬期ロバの子クラブ 12(火) 始業式 お弁当 13(水) 身体測定 14(木) 身体測定 15(金) おもちつき 19(火) わかば会 20(水) 座談会(12・1月) 26(火) バイブルクラス 27(水) 誕生会 28(木) 避難訓練 29(金) 1日入園
4(木) 新1年一日入学II 10(水) 学力テスト 12(金) 漢字検定 19(金)～23(火) 児童造形展 20(土) 低学年学習発表会 23(火) 6年社会科見学 23(火)～3/5(金) 1～5年個人面談 26(金) 授業参観II(6年) 6年学年懇談会	19(金) 学習発表会(1年～3年) 26(金) 学習発表会(4年～6年)	1(月)～5(金) 個人面談 12(金) 防犯教室 17(水) 誕生会 17(水) 入園打ち合わせ 19(金) 卒業遠足	1(月) (長)保育参加①(希望者) 2(火) (長)保育参加② 3(水) ひとみ座③ 4(木) (長)保育参加③ 5(金) (長)保育参加④/(少)保育参加 8(月) (長)保育参加⑤ 9(火) (長)保育参加⑥ 15(月)～19(金) 個人面談 19(金) 卒業遠足 23(火) バイブルクラス 24(水) 誕生会 25(木) 保育参加(中) 26(金) 新入児保護者連絡会
1(月) 方面別反省会 3(水) 卒業礼拝 4(木) 卒業記念バレーボール 5(金) 5年社会科見学 6(土) 餅つき体験会 16(火) 第54回卒業式 23(火) 終業式 オリブの会全体会 24(水) 春期休業開始	5(金) 6年生を送る会 8(月) 卒業礼拝 18(木) 卒業式 19(金) 終業式・個人面談 23(火)・24(水) 個人面談	1(月) ひな祭りなかよし会 3(水) 誕生会 10(水) お別れ会 12(金) おりぶ会総会 17(水) 卒業式(年中参加) 18(木) 終業式	2(火) バイブルクラス 3(水) 誕生会 4(木) なかよし会 9(火) わかば会総会 10(水) 座談会(2・3月) 16(火) 終業式 17(水) 卒業式 18(木) 春期ロバの子クラブ開始

主な学校行事予定(10月～3月)

10

11

12

1

2

3

大学	中学校高等学校	六浦中学校・高等学校
6(火) 学院創立記念日(授業日) 6(火)～12(月) 学院創立記念週間 30(金) 大学祭準備(休講) 31(土)・11/1(日) 大学祭(休講)	2(金) 高2香柏会 6(火) 学院創立記念日・祈祷会 10(土) オープンキャンパス 9:30～13:00 生徒自宅学習日 13(火) 高校生対象 携帯電話・インターネットに関する講演会(LHR) 20(火)～23(金) 中間試験 26(月) 高3記述模試 30(金) 高校宗教改革記念礼拝 かんらんさい準備⑤～ 中学宗教改革記念礼拝 かんらんさい準備(終日)	2(金) 学院創立記念礼拝 (秋季特別伝道礼拝) 3(土) オープンキャンパス (児童体験プログラム) 6(火) 学院創立記念日(特別授業) 14(水)～16(金) 中間試験(高校) 15(木)～16(金) 中間試験(中学) 16(金) ボランティア活動 18(日) 高3模試(公開会場) 30(金)～31(土) 六浦祭
2(月) 大学祭後整理(休講)	2(月) かんらんさい(非公開) 3(火) かんらんさい(公開) 4(水) かんらんさい後片付け(午前中) 5(木) 振替休日 6(金) 中学学力テスト(記述式) 高2模試 9(月) 中2香柏会 11(水) 中3香柏会 13(金) 中1香柏会 17(火) 捧げもの持参日 高3進路講演会(LHR) 18(水) 中学感謝祭礼拝 19(木) 高校感謝祭礼拝 20(金) 中1狂言鑑賞④⑤⑥ 26(木) 高校生生徒会役員選挙④ 27(金) 中学生生徒会役員選挙③ 高3香柏会 30(月) ツリー点灯式	6(金) 中学学力推移調査 15(日) 高2模試(公開会場) 17(火) 収穫感謝礼拝(中学校) 18(水) 収穫感謝礼拝(高校) 20(金) ダンス発表会 25(水) 点灯式 28(土) 小学生6年生のための勉強会
14(月) 大学クリスマス礼拝 23(水) 冬期休業開始 【学部】 24(木)～29(火) 冬期集中講義期間 (但し、土・日曜日を除く)	7(月)～10(木) 期末試験 10(木) 第11回オーストラリア研修旅行 参加者希望の会 11(金) 高3センタープレテスト 高2知のフロンティア 12(土) 高3センタープレテスト 高2知のフロンティア 14(月) 答案返却 16(水) 坂田祐召天記念日 18(金) 関東学院クリスマス クリスマス礼拝 キャンドルライトサービス 20(日)～26(土) 台湾ホームステイ 21(月) 冬期休業開始 希望制冬期講習 中学指名制補習	3(木)～8(火) 期末試験(高1・2) 4(金)～8(火) 期末試験(中学・高3) 17(木) クリスマス礼拝 19(土) 終業式 23(水)～27(日) スキースノーボードスクール
【学部】 3(日) 冬期休業終了 4(月) 秋学期授業再開 16(土) 大学入試センター 試験(補講日) 17(日) 大学入試センター 試験 23(土) 秋学期授業終了 19(火)～22(金)・25(月) 補講及び秋学期 定期試験 26(火)～2/1(月) 秋学期定期試験 24(日) 定期試験予備日 31(日) 定期試験予備日 【大学院】 3(日) 冬期休業終了 4(月) 秋学期授業再開 16(土) 大学入試センター 試験(休講) 30(土) 秋学期授業終了 17(日) 大学入試センター 試験 19(火)～22(金)・25(月) 補講及び秋学期 定期試験 26(火)～2/1(月) 秋学期定期試験 24(日) 定期試験予備日 31(日) 定期試験予備日 【法科大学院】 3(日) 冬期休業終了 4(月) 秋学期授業再開 16(土) 大学入試センター 試験(休講) 17(日) 大学入試センター 試験 19(火)～22(金)・25(月) 補講及び秋学期 定期試験 26(火)～2/1(月) 秋学期定期試験 24(日) 定期試験予備日 31(日) 定期試験予備日	7(木) 冬期休業終了 8(金) 3学期始業礼拝 3学期授業開始②～ 高1模試 26(火) 第91回中高創立記念礼拝 27(水)	8(金) 始業式 9(土)～29(金) 高3特別授業 29(金) 高校卒業礼拝
【学部】 2(火) 定期試験予備日 2(火)～9(火) 冬期集中講義期間 (但し、土・日曜日を除く) 12(金)～15(月) 追試験 【法科大学院】 2(火) 定期試験予備日 2(火)～9(火) 冬期集中講義期間 (但し、土・日曜日を除く) 19(金)～22(月) 追試験及び再試験	9(火) 中学バプテストミッションデー礼拝 10(水) 高校バプテストミッションデー礼拝 12(金) 中学合唱コンクール 13(土) オーストラリア研修旅行第1回説明会 15(月) 中1香柏会 17(水) 高2マーク模試 中2香柏会 中3香柏会 高1香柏会 高20Bによる進路講演会(LHR) 高2香柏会 高校卒業礼拝	1(月) 中学入試(A日程) 2(火) 中学入試(B日程) 4(木) 中学学力試験・高1・2模試 5(金) 中学入試(C日程) 19(金) 合唱コンクール 22(月) 生徒総会
【学部】 24(水) 卒業式・学位授与式 31(水) 秋学期終了 【大学院】 24(水) 卒業式・学位授与式 31(水) 秋学期終了 【法科大学院】 24(水) 卒業式・学位授与式 31(水) 秋学期終了	1(月) 第62回高校卒業式 4(木)～9(火) 期末試験 12(金) 答案返却 19(金) 中学卒業礼拝 20(土) 終業礼拝 21(日) 春季休業開始 22(月)～25(木) スキー教室	1(月) 高校卒業式 8(月)～11(木) 期末試験(高1・2) 8(月)～10(水) 期末試験(中学) 10(水) ボランティア活動 20(土) 修了式

Main Annual School Events(from October,2009 to March,2010)



関東学院大学

●金沢八景キャンパス

経済学部・工学部・人間環境学部
大学院（経済学研究科・工学研究科）
法科大学院

●金沢文庫キャンパス

文学部
大学院（文学研究科）

●小田原キャンパス

法学部
大学院（法学研究科）

☎045-781-2001(代)

☎045-781-2001

☎045-786-7179

☎0465-34-2211

関東学院中学校高等学校

☎045-231-1001

関東学院小学校

☎045-241-2634

関東学院六浦中学校・高等学校

☎045-781-2525

関東学院六浦小学校

☎045-701-8285

関東学院六浦幼稚園

☎045-781-0170

関東学院野庭幼稚園

☎045-845-0876

学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 ☎045-786-7028 (代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して



この印刷物は大豆インキを使用しています。

古紙配合再生紙を
使用しています